

令和4年度  
社会福祉法人 やおき福祉会  
事業報告書

## <目 次>

1. 法人事業報告	3～7
2. 法人組織	8
3. 各事業所の事業報告	
<b>(田辺市)</b>	
① 紀南障害者地域生活支援センター	9～11
② やおき工房	12～20
③ ゆうあいホーム（白浜町・上富田町含む）	21～25
④ くりっぷ	26～27
⑤ 陽だまり	28～33
⑥ ハモニティー	34～37
⑦ アンカー	38～43
⑧ SHIP	44～46
⑨ サンヒルズ（みなべ町含む）	47～49
<b>(田辺市：中辺路・本宮)</b>	
⑩ 古道ヶ丘・本宮くまのこ作業所	50～57
⑪ こどうの家、第2こどうの家	58～60
<b>(田辺市：龍神)</b>	
⑫ 龍の里作業所、柳瀬出張所	61～65
<b>(上富田町)</b>	
⑬ かしのき	66～68
<b>(白浜町)</b>	
⑭ かへむ	69～73
<b>(みなべ町)</b>	
⑮ すまいる	74～78
<b>(すさみ町)</b>	
⑯ いなづみ作業所	79～83

# 令和4年度 法人事業報告

令和4年度の事業計画・法人基本方針に沿って以下の点について取り組んだ。

## 1. 利用者視点に立った円滑な福祉サービス事業の展開

社会福祉法人として、利用者のエンパワメントを大事にしながら、虐待防止や差別解消法等を遵守するとともに、各事業の特性を生かした支援を総合的に行った。

① 地域から様々な相談を受け、市町と連携した委託相談、サービス等利用計画作成における相談支援等を通して、円滑な地域生活を送るために必要な支援を行うとともに、地域相談支援体制の向上に向け、行政と連携して取り組んだ。

② グループホームについては、ゆうあいホーム再編後の円滑な運営を確保し、合理的な運営をすすめた。サンヒルズは就労型としての運営を行い、年度末に浜市社宅を引き上げ鹿島ホームの定員を3名から4名に変更し一体的な支援を再開した。「なないろ」「南紀の台ホーム」は各7名定員運営を継続し施設通所者、一般就労者が共同生活を送っている。

③ 一般就労については、制度の水準達成を果たすとともに就労定着を重視した支援を行った。就労系事業所ではB型事業所の工賃アップを目標とした授産努力を連携で行いつつ、個々の利用者のニーズに応じて、一般就労や他事業所等へのステップアップを図るとともに生活面の支援も各事業所において一体的に実施した。また、すまいるが借出し地域住民向けの店舗作業を提供していた「ぼのぼの工房」は8月に喫茶事業を廃止し、3月に建物の返還を行った。これによりすまいるの拠点が1か所に集約されることとなった。

④ 余暇及び生きがいに対する取り組みについては、事業所ごとに、集団活動・交流を目的としたレクリエーションや旅行、地域のイベントなどの参加等、楽しめる機会を積極的に取り組んだ。

⑤ 地域格差を生まない取り組みとして、事業所間での情報共有を図り、密な連携を行うことで、事業所が相互に高まっていけるよう取り組んだ。

⑥ 利用者自身が選択・決定できるよう、サービス等利用計画、各事業所における個別支援計画に基づくモニタリングを丁寧に行うことで、利用者の希望を聞く機会を確保して支援を行った。

⑦ 法令に基づく虐待防止、人権擁護、差別解消等の取り組みについては法人各事業所において意識的に実施するとともに、2か月に1回の頻度で苦情相談委員会を開催する等、個別の案件をくみ取りながら人権意識の向上に取り組んだ。なお、年1回、県が実施する「虐待防止研修」及び「伝達研修」に参加し伝達研修会を行った。

⑧ 高齢化する障害者の支援体制については、個別に事例検討を実施し、利用者に必要な支援を考えるとともに、必要に応じ、高齢資源との連携を図ってきた。その他、昨年度も実施してきた「居住支援法人事業」においては補助金の関係で事業実施期間を大幅に短縮することとなったが、高齢者を含めた「住まい確保」の問題について、法人内を始め行政や地域資源と課題共有等を行った。

## 2. 財務運営

令和4年度は、健全な財務運営を継続しつつ、近い将来に直面するであろう郡部の利用者減少や高齢化・他事業所との競合に備えるための施設整備を昨年度に引き続き実施した。

具体的には B 型事業所ハモニティーの新棟であるハモニティーstretch+の運営を軌道に乗せるための新規利用者の獲得と、かへむの平均利用者の増加に向けた新規利用者の受入の推進を実施した。これにより前年度より多くの利用者を獲得できた。

また、「新社会福祉法人制度」のもとでの財務運営も定着し、「地域貢献」に提供される「余裕財産＝再投下計画」については、本年度も対象とはならない運営を行うことができた。

① 毎月、法人全体の充実財産試算表を作成し、計画性を持った運営を行った。

② 資産の有効活用については、利用者処遇や給与規程の改定などを通して質の向上に期するとともに、将来を見据えたバランスに配慮した活用をすすめた。

③ 建物及び設備への計画的な投資については、現在の利用者支援ニーズを踏まえ、田辺市と古道ヶ丘の移転に関する懇談会を定期的に持つなど今後の計画的施設整備に向けた検討を行った。

④ 職員の安定雇用を目的として本年度も定期昇給を実施した。

⑤ 新型コロナウイルス対策の一環である職員の処遇向上のための助成金を申請し、令和4年2月分給与より賃金改善を継続し、令和4年10月からは新たな処遇改善加算の取得を行った。

### 3. 人材の採用・育成と長く働き続けられるしくみづくり

全国的な人材不足の傾向は本地域ではより深刻な問題となっており、本年度も離職に伴う適時の採用に困難な側面があり、取り分け、旧市外の事業所において顕著だった。

「働き方改革」については有給休暇の取得等、法人各事業所において推奨しながら、国の基準に沿った取得を促進した。

その他、在職中の人材育成の取り組みとしてはコロナ禍の影響により主任研修、法人研修部による各種の研修は感染状況に配慮しつつリモート研修なども交え慎重に実施した。

- ① 人事ヒアリングについては昨年度より質の向上を図り各事業所個別に2回実施した。
- ② 法令に定められている虐待防止研修、人権擁護研修、安全・災害対策研修については、2年ぶりに全体研修を開催し、伝達研修等に類する取り組みは事業所毎に実施したが、新型コロナ対策等の影響から、研修に関しては全般的に自粛傾向となり十分な実施には至らなかった。
- ③ 主任研修は、事務局会議にて内容を検討し7回開催。
- ④ その他については、新人職員研修を実施（少数のため）。研修部主催研修は防災研修を実施、また、ボランティア事業での地域啓発研修を2回開催。各事業所毎での必要な研修については感染予防を徹底した上で少数にて実施した。また、法人内での必要な会議等についてはコロナの地域感染状況を確認しながらWEB会議との併用にて実施した。

### 4. 社会福祉法人としての役割の推進

法令・制度を遵守しながら「地域貢献」を意識した運営を行った。他の株式会社や特定非営利活動法人にはない連携や地域交流を図り「給付」の対象とならない活動も積極的に行った。

### 5. その他

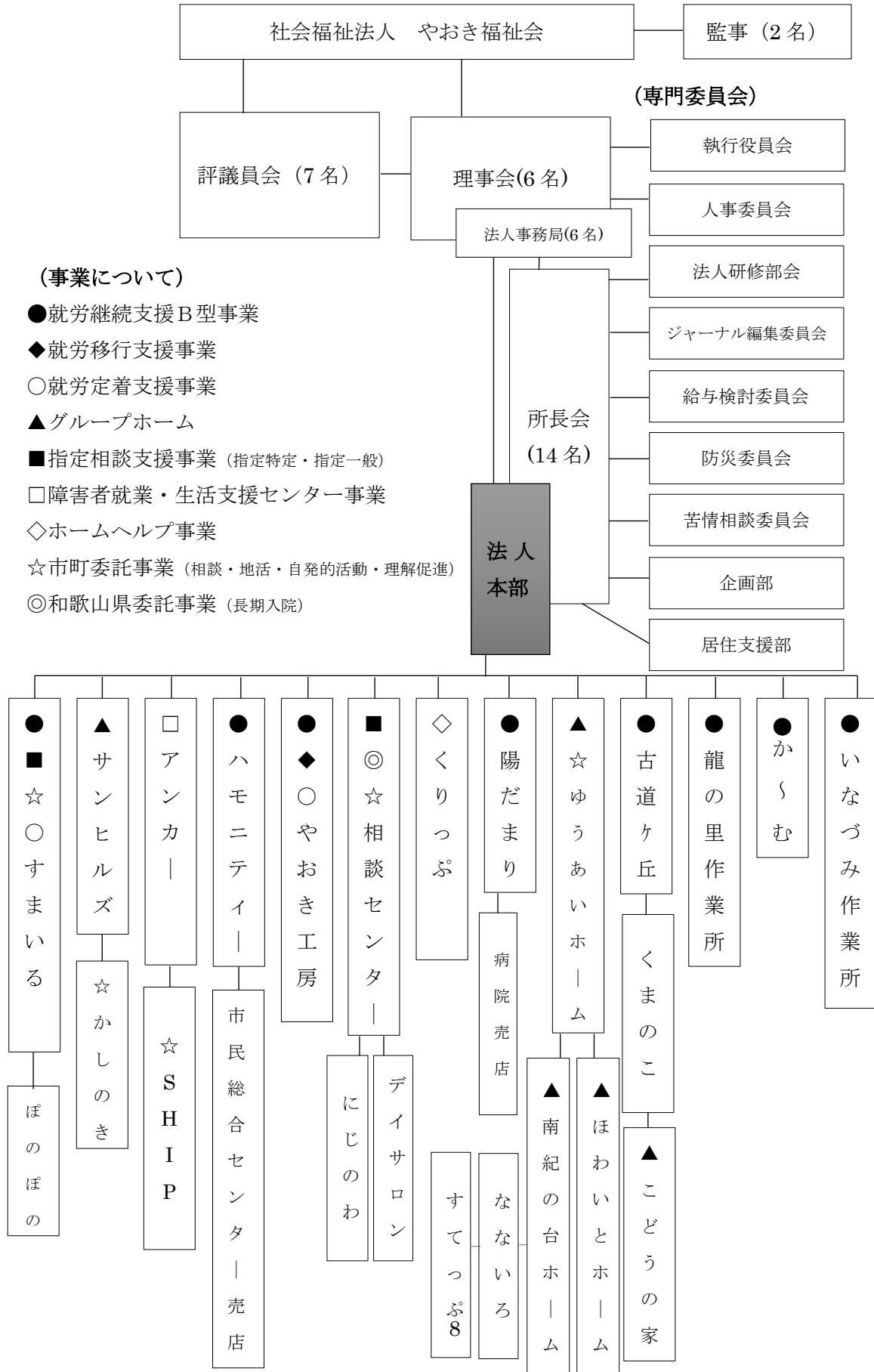
コロナ禍への対応として、各事業所への給付金や物価高騰支援金の申請などをとりまとめた。また、県内・圏域内での感染拡大時には臨時での会議を開催し、職員・利用者の方々への行動自粛についての依頼等を行ってきた。法人内での感染者は令和4年12月にゆうあいホーム関係でのクラスターが1件、各事業所でも数名の陽性者が発生したものの、以降は単独感染や濃厚接触者等が数名出たが、事業の一時中断に至るような感染は発生せず大事には至らなかった。長期休暇後、体調不良者の抗原検査など、感染者発生に備えての対応についてのシュミレーション、対応者の確認等を行ってきた。

## 6. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4月	1日 辞令交付式・勤続表彰式 5日 法人事務局会議 18日 所長会議 27日 執行役員会	19日 苦情担当者会議
5月	10日 法人事務局会議 16日 所長会議 24日 監事監査 28日 理事会 26日 執行役員会	13日 新人職員研修① 20日 新人職員研修② 27日 新人職員研修③
6月	7日 法人事務局会議 20日 所長会議 25日 評議員会 29日 執行役員会	3日 新人職員研修④ 6日 ジャーナル 95号発行 17日 主任研修 21日 苦情担当者会議
7月	2日 法人事務局会議 25日 所長会議 28日 執行役員会	8日 後援会総会 15日 主任研修 29日 給与改定委員会 29日 所長研修
8月	2日 法人事務局会議 5日 理事会（一次補正） 22日 所長会議 31日 執行役員会	19日 主任研修 23日 苦情担当者会議
9月	13日 法人事務局会議 26日 所長会議 28日 執行役員会	16日 主任研修
10月	4日 法人事務局会議 13日 人事委員会 17日 所長会議 24日 人事委員会 26日 執行役員会	1日 シーカヤック（ボラ事業） 13日 ジャーナル 96号発行 18日 苦情担当者会議 21日 主任研修
11月	1日 法人事務局会議 21日 所長会議 30日 執行役員会 28日～12/16 所長ヒアリング 25日 理事会（2次補正）	5日 アウトドア体験（ボラ事業） 18日 主任研修 21日 GH検討委員会 22日 所長研修 30日 防災研修

1 2月	6日 法人事務局会議 10日 職員登用試験 19日 所長会議 20日 人事委員会 28日 執行役員会	4日 発達障害者研修（ボラ事業） 16日 主任研修 20日 苦情担当者会議
1月	10日 法人事務局会議 16日 所長会議 25日 執行役員会	13日 給与改定小委員会 20日 介護技術研修 24日 所長研修
2月	2日 人事委員会 7日 法人事務局会議 17日 理事会（三次補正） 20日 所長会議 22日 執行役員会 28日～3/3 ヒアリング	10日 給与改定小委員会 21日 苦情担当者会議 21日 GH 検討委員会 24日 アディクション研修 24日 ジャーナル 97号発行 27日 所長研修
3月	7日 法人事務局会議 18日 理事会（事業計画・予算） 20日 所長会議 22日 執行役員会	7日 ボードゲーム交流（ボラ事業） 24日 法人虐待防止研修

7. 法人組織（令和4年度の組織及び実施事業）





## 指定相談支援事業 「紀南障害者地域生活支援センター」

### 1. 運営概況

令和4年度においても新型コロナウイルス感染症予防に留意しながら業務を行ってきたが、通常の年度と比べ、制限された行動が続き、相談支援利用者、職員ともにストレスの多い1年であった。

相談センターで実施する事業は、「指定特定相談支援」、「委託相談支援」、白浜町の「自発的活動支援事業」和歌山県の「長期入院精神障害者地域移行促進事業」について年間通して実施したことに加え、12月から居住支援事業、1月から自立生活援助事業を実施した。

### 2. 事業報告

#### ① 指定特定相談支援（計画相談支援 ※サービス等利用計画の作成とモニタリング）

本年度も「ユアセルフ」との間で協働型相談支援を実施することで、機能強化型サービス支援費Ⅱ（毎月の連携会議の開催、連携による事例検討・研修の実施、現場でのケース連携等が要件）で運営を行った。

#### ② 指定一般相談支援（地域相談支援）

「地域移行支援サービス（退院支援）」については、病院や他機関からの要請がなく、今年度も利用はなかった。地域生活の安定を図るための「地域定着支援」についても同様に利用はなかった。

#### ③ 市町相談支援事業（委託相談支援）

西牟婁圏域の市町村（田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町）から一般的な相談支援の受託を継続し、地域生活等に関する必要な相談を実施した。今年度の委託形態は以下のとおりである。

名称 西牟婁圏域障害児・者相談支援センター「にじのわ」

対象地域 西牟婁圏域全体

所在地 田辺市民総合センター1階

運営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会

派遣 やおき福祉会より専任の相談支援専門員2名

#### ④ 長期入院精神障害者地域移行促進支援事業

和歌山県からの受託を継続し、長期入院となっている精神障害者の退院意欲の喚起を目的として相談支援を実施した。利用者は1名について支援を継続している。

その他、事業の運営に関する他職種会議を年3回開催するとともに、市町の義務となった「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの整備」と連携する機能として共有を図った。

### ⑤ 白浜町自発的活動支援事業

白浜町からの受託を継続し、月3回のデイサロンを毎月行った。コロナの感染拡大により3回開催できない月もあったが、取り組みの中では感染もなく、落ち着いて運営することができた。

### ⑥ 居住支援事業

国の補助金管理団体が変わったことで申請手続きが上手くいかず、4月からの実施とならなかったが、12月の補正予算での申請となり、補助事業としての期間は12月からとなった。但し、県から居住支援法人の指定があるため実質的には4月から通年実施してきた。

## 3. 地域ネットワーク活動

### ① 西牟婁圏域自立支援協議会活動

協議会の事務局、定例会、全体会に参加するとともに専門部会として「精神保健福祉部会」、「相談支援部会」に参加し、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築」や相談支援における地域の課題等について協議を行った。

### ② 圏域委託相談法人会議の活動

4法人で運営する「にじのわ」及び「基幹相談センターにしむろ」について、毎月、協議を行うとともに、市町行政と連携して活動を行った。

### ③ 県連絡会議への参加

県の主幹する精神障害者地域移行関連事業所連絡会に参加する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で4年度の開催はなかった。

## 4. その他の活動

① 新型コロナウイルス感染症の予防に留意しながら、事業所内での事例検討や制度研修、他機関の実施する研修等に参加した。

② 行政及び諸団体の委員・役員等を担い支援協力等を行った。

## 5. 行事報告

年月	支援業務	行事等
4月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援等の活動	デイサロン（ドライブ、買い物）
5月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援等の活動	デイサロン（古座川 一枚岩）
6月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援等の活動	デイサロン（フラワーアレンジメント）
7月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援等の活動	デイサロン（かえるの港、ロマンシティー）
8月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入	デイサロン（かき氷）

	院者支援、デイサロン、居住支援等の活動	
9月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援等の活動	デイサロン（電車にて串本）
10月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援等の活動	デイサロン（バーベキュー古道ヶ丘）
11月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援等の活動	デイサロン（パピリオン、ロマンシティー）
12月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援等の活動	デイサロン（クリスマス&忘年会）
1月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援、自立生活援助等の活動	大雪の為中止
2月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援、自立生活援助等の活動	デイサロン（観梅）
3月	圏域委託相談（にじのわ）、サービス等利用計画の作成、長期入院者支援、デイサロン、居住支援、自立生活援助等の活動	デイサロン（いちご狩り、新庄公園）

#### 6. 数値実績（委託相談・指定特定相談・指定一般相談）

項目	にじのわ（4法人）	相談センター
相談支援専門員数	8名（うち、やおき2名）	4人（3.5人）
事務員	1名	1名（管理者）
相談支援件数 計	10,990件（4法人）	5,325件

#### 相談センター障害別相談件数

精神障害	知的障害	身体障害	発達障害	高次脳	難病	不明（※高齢含）
3,392	730	160	348	65	46	223
実人数	213人					

#### 相談センター年代別相談件数

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	児童
件数	44	753	627	1,517	1,207	763	267	113

#### 7. 県委託事業支援件数

事業 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
長期入院事業 （1人）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

#### 8. 居住支援事業支援件数

事業 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
居住支援事業 （18人）	41	31	49	47	37	36	35	34	83	89	74	80	636

## 【就労移行支援・就労継続支援 B 型・就労定着支援】

# 令和 4 年度 やおき工房 事業報告

## 1. 運営状況

今年度は就労移行支援（定員 7 名）及び就労継続支援 B 型（定員 20 名）、就労定着支援（定員なし）の 3 事業の運営を行った。

就労移行支援では、圏域での事業所が 2 つに減ったため、新規利用者の若干の増加が見られた。それと並行して就労アセスメント利用者が 18 名（前年度は 12 名）に上るといふ新たな課題も生まれている。制度上就労アセスメントを経ないと B 型事業所の利用ができないため、受け入れざるを得ない状況である。一日の受け入れ上限や職員体制も厳しく頭を痛めている。延べ利用者 27 名の内 18 名（67%）が就労アセスメント利用者である。

就労継続支援 B 型では、授産事業では委託事業での減収やバザー活動も皆無と断言している状況の中で、なんとか前年度と同程度の収入を維持できた。販売事業の伸びが大きい。そのため利用者に対してこれまで以上の工賃保障に繋げることができた。

利用者状況では本人や家族の高齢化により、誤嚥性肺炎の悪化による入院を重ね退所に至った方や親が要介護状態となったり兄弟が精神科病院に入院・転院したりして介護や世話のために通所ができなくなり、本人も精神的にも肉体的にも追い込まれてしまう等のケースがあった。また、ご近所トラブルを繰り返す利用者には田辺市、基幹相談支援センターにしむろを始め多くの関係機関と連携し転居支援や生活保護の受給・その他の生活サポートに当たった。本人や家族、地域生活の状況をつぶさに見極めながら丁寧にまた迅速にサポートしていく必要性を感じた。

就労定着支援では、利用者 7 名の内 2 名が離職し、就労移行支援と就労継続支援 B 型で再訓練となった。アンカーや他機関と連携し、面談や企業訪問・調整を重ねながら職場定着を図っている状況である。

## 2. 事業報告

### ① 就労支援活動

#### 【就労移行支援】

- (1) 新規利用者：6 名（支援学校卒業者 3 名、自立訓練卒業者 1 名、離職者 2 名）
- (2) 就職者：2 名（5 月 看護学校・清掃員、10 月 障害福祉施設・事務補助）  
その他の退所者：2 名（就労アセスメント終了後 B 型に転籍）
- (3) 併用利用者：1 名（雇用形態が午前勤務であったため、午後は訓練継続）
- (4) 就労アセスメント利用者：18 名（圏域で就労アセスメントができる事業所がやおき工房だけとなっているため利用者は増加している。やおき工房に通所できない利用者もあり、他事業所へ訪問しての就労アセスメントも多く負担は大きい。定員を増やさ

ないと受け入れが厳しいが、定員を増やすと職員体制を増やす必要が出てくるし、就労定着実績が下がってしまうというジレンマを抱えている。自立支援協議会就労支援部会でも問題提起はしているが改善される兆しはない。就労選択支援事業ができるまでは続きそうである。）

#### (5) 授産活動

i 給食事業：年間喫食数は 15,898 食（前年度比 147 増）であった。給食提供日は 222 日で 1 日当たりの平均喫食数は 71.6 食（前年度比 1 増）であった。事業所別の年間喫食総数（一日平均喫食数）は、やおき工房 7,126 食（32 食）、ハモニティ 2,433 食（11 食）、陽だまり 4,061 食（18 食）、か〜む 2,278 食（10.3 食）であった。一食当たりの食材費が 334 円であり、300 円に抑えられていないのが現状。原材料費高騰の影響も大きい。ボリュームアップや優良食材導入、デザート追加等の要望もあるがなかなか厳しい状況にある。

#### 【就労継続支援 B 型】

- (1) 新規利用者：4 名（移行から転籍 2 名、地域から 1 名、就労定着支援退所者 1 名）
- (2) 退所者：4 名（他法人 A 型へ 1 名、就労併用終了 1 名、長期療養病床入院 1 名、自宅 1 名）
- (3) 長期休所者：2 名（病気・手術後の療養 1 名、精神症状不安定 1 名）
- (4) 授産活動

i 受託作業：上富田スポーツセンターの委託料の減額もあり、前年度と比べて 40 万円程度の減収となった。除草作業等の受注拡大を図る予定であったが、営業活動はほぼできなかった。

ii 内職作業：福菱の箱折りも復調してきて、前年度比 20 万円弱の増収となったが大きな収入源にはなり得ていない。

iii 販売事業：前年度比 20 万円強の増収となった。菓子販売で 15 万円弱の増収、メモ帳販売で 6 万円強の増収であった。製菓では商品のラインナップが増えたこと、和歌山県セルフセンターのカタログ販売「わっくる」でのゆやけクッキーの売り上げが幾分増えたことが要因だと思われる。メモ帳は共同受注で県の障害者週間啓発事業（210 冊）、上富田町の自殺予防週間啓発事業（200 冊）の注文があった。Eco ピカセスキの販売は引き続き伸び悩んでいる。

#### 【就労定着支援】

- (1) 利用者：7 名に対し相談支援や企業訪問等を行い職場定着を支援した。内、支援期間を満了した者が 1 名、年度途中で退職した者が 2 名であった。退職した 2 名は就労移行支援、就労継続支援 B 型でそれぞれ受け入れ再訓練となった。残る利用者も課題が多く、細やかな支援や調整が必要な状況である。

## ② 生活支援活動

- (1) 土曜開所：20 回開催する。コロナ禍でほとんどが作業日となった。就労移行利用者の参加が少ない状況である。利用者がどういったものを望んでいるのかの把握に努め、内容については工夫していく必要を感じている。
- (2) 健康管理：
  - i 健康診断（3/14、16、17 白浜はまゆう病院）を実施し健康管理の支援に努めた。また、運動が必要な利用者を対象に定期的にウォーキングを実施した。
  - ii 田辺市まちづくり学びあい講座を活用して、『生活習慣を見直して健康寿命をのばしましょう』をテーマに健康講座（3/23）を開催し 21 名が参加した。保健師や管理栄養士に食事や運動等の生活習慣で気を付けるポイントについて講義頂いた。
- (3) 学習支援：
  - i 和歌山県消費生活センターの消費生活相談員を講師に招いて悪徳商法学習会（3/22）を開催し 27 名が参加した。様々な悪徳商法の手口や SNS の適切な利用方法、自分たちができる対策について学習した。
  - ii 就労や生活に役立つ学習会を複数回開催する予定であったができなかった。次年度は早めに計画し実施していきたい。
- (4) 余暇支援：花見（4/7 平草原）、買物レク（10/12 和歌山イオン）、アウトドア体験（11/5 古道ヶ丘）、初詣&お食事会（1/4 鬮鶏神社、桜香）、ボウリング & お食事会（3/29 ジストボウル田辺、亀の井ホテル）、を開催した。一泊旅行については今年度も断念し日帰り旅行（11/25 湯浅町、有田市）に切り替え 27 名が参加した。
- (5) サークル：今年度もコロナ禍により精神障害者ソフトバレーボール和歌山大会の参加及び練習の開催を見送った。
- (6) 防災訓練：12/27（25 名参加）、3/9（27 名参加）の 2 回行った。『日常に潜む火災についての講義』や出張減災教室で『地震と津波についての基礎講座』や地震体験車ごりょう君にて地震体験を行った。

## ③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援：A 型事業所を希望する利用者 2 名には、圏域の A 型事業所数ヶ所の見学・体験同行や利用調整を行った。また、グループホームの利用調整を行った利用者が 1 名。ホームヘルプサービスの利用調整を行った利用者が 3 名であった。ご近所トラブルによる転居支援を 1 名に対して行った。親の介護、兄弟の入院等により通所が滞り変調した利用者には兄弟の医療同行援助や介護保険サービスとの連携、自身の医療同行・服薬支援を含めサポートした。

- (2) 医療支援：利用者 3 名に受診同行や医師連絡、入院の同行支援等を行った。2 名には服薬管理支援を行った。今年度は精神的不調による入院が 1 名、内科的疾患による入院が 1 名であった。
- (3) 免許取得支援：1 名に運転免許取得にかかる手続きや学習支援を行い、原付免許を取得した。
- (4) 紀南こころの医療センターデイケアとのカンファレンスを 3/9 に実施し、利用者 1 名の情報共有・支援内容の検討を行った。
- (5) 家族懇談会：コロナ禍により中止とした。必要な家族とは個別に調整を行った。

### 3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) ゴミ拾い&ウォーキング：運動が必要な利用者と三栖・城山台沿道の清掃ボランティアを行う。計 23 回実施し延べ 109 名が参加した。
- (2) バザー用品等の貸し出し：田辺第三小学校ドッジボールクラブにかき氷機、綿菓子機を貸し出した。(5/22)  
少年サッカークラブにかき氷機を貸し出した(8/6、7)
- (3) バザー活動：コロナ禍で予定していたバザーはほぼ中止となった。地域福祉フォーラム(8/27 ビッグ U)、市民福祉映画祭(11/27 紀南文化会館)にて小規模ながら物品販売を行った。
- (4) 赤い羽根共同募金会街頭募金(10/3 グルメシティー万呂店)に 4 名が参加した。

### 4. その他の活動

- (1) はまゆう支援学校高等部 3 年生 23 名を就業体験(現場実習)で受け入れた。
- (2) 紀南看護専門学校 3 年生 36 名を精神科看護実習で受け入れた。

### 5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	6	自治会(役員改選、年間行事計画)	
	7	花見(平草原)	
	16	土曜開所(作業)	
	29	休日開所(作業)	
5	7	土曜開所(作業)	
	21	土曜開所(作業)	
6			
7	9	土曜開所(作業)	
	23	土曜開所(作業)	
8	6	土曜開所(作業)	
	20	土曜開所(作業)	
	27	地域福祉フォーラム物品販売(ビッグ U)	
9	3	土曜開所(作業)	
	17	土曜開所(作業)	

10	1	土曜開所（作業）	
	3	赤い羽根街頭募金（グルメシティー万呂店）	
	12	買物レク（和歌山イオン）	
	15	土曜開所（作業）	
11	19	自治会（役員改選）	
	5	土曜開所（作業、アウトドア体験交流会）	
	19	土曜開所（作業）	
	25	日帰り旅行（湯浅町、有田市）	
12	27	市民福祉映画祭物品販売（紀南文化会館）	
	10	土曜開所（作業）	
	24	土曜開所（作業）	
1	27	防災訓練	
	4	初詣&お食事会（闘鶏神社、桜香）	
	14	土曜開所（作業）	
2	28	土曜開所（作業）	
	11	土曜開所（作業）	
3	7	ボードゲーム大会（ビッグU）	
	9	防災訓練	
	11	土曜開所（作業）	
	14	健康診断（白浜はまゆう病院）3/16、3/17	
	22	悪徳商法学習会	
	23	健康講座	
	29	年度末お食事会&ボウリング	

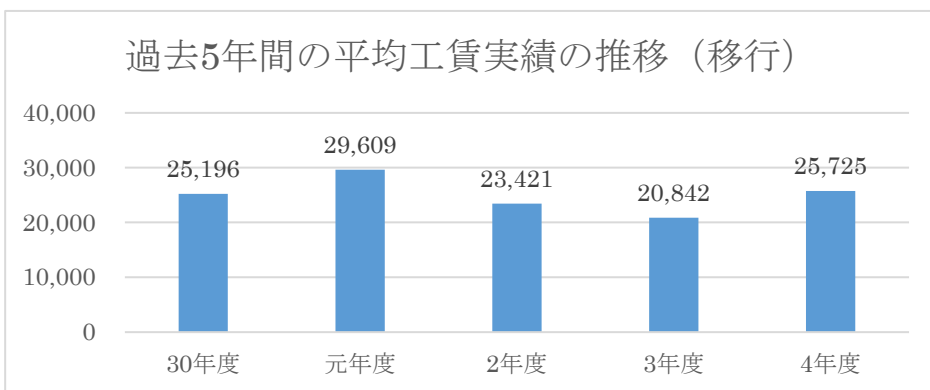
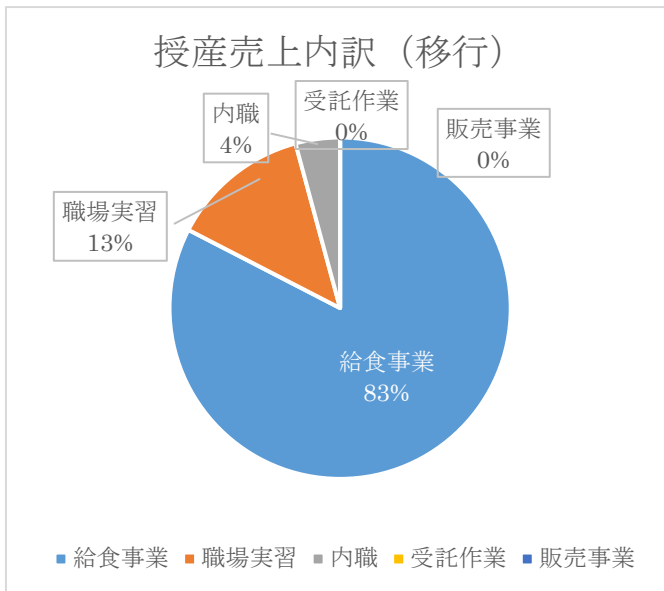
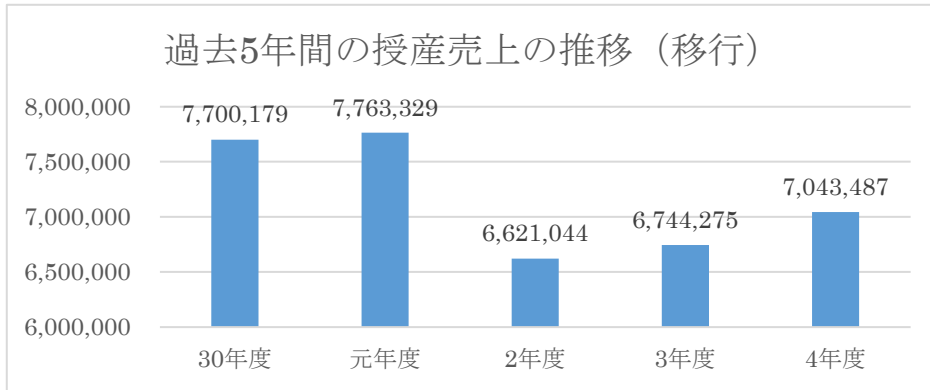
## 6. 数値実績

### ① 施設概要

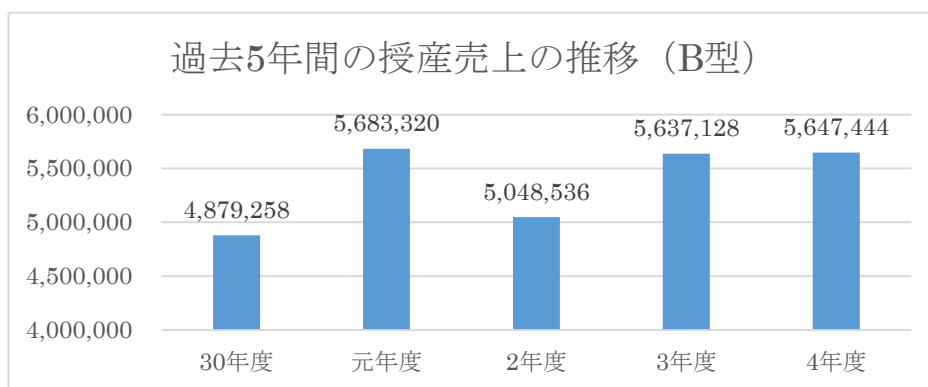
事業種別	【就労移行支援】	
	令和4年4月	令和5年3月
定員	7人	7人
実利用者数	9人	8人
1日平均利用者数	7.64人	7.0人
職員常勤換算配置数	1.9人	1.9人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数
	259日	19日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	給食事業	5,816,700円
	職場実習	930,377円
	内職作業	296,410円
		計 7,043,487円



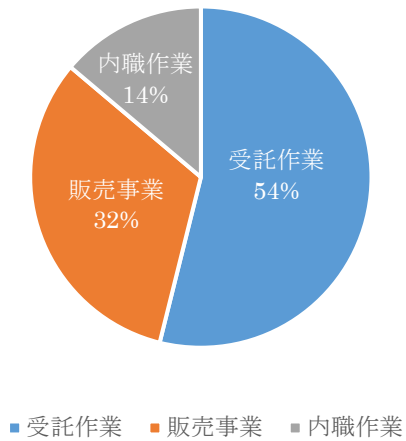
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 なし	実績 月額 25,725 円
-----------------	------------	-------------------



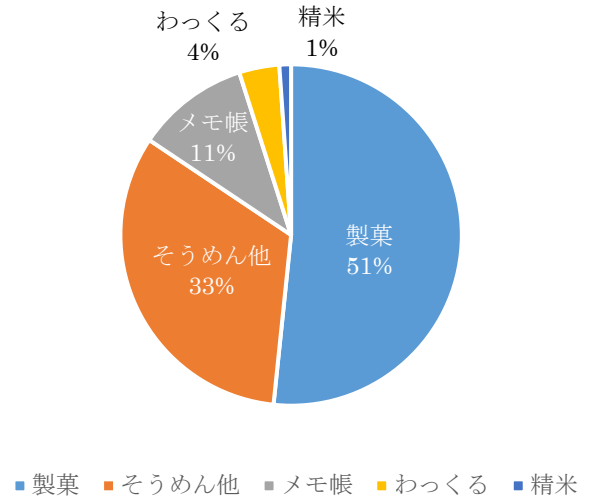
事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 4 年 4 月 20 人	令和 5 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 4 年 4 月 30 人	令和 5 年 3 月 30 人
1 日平均利用者数	令和 4 年 4 月 20.6 人	令和 5 年 3 月 23.9 人
職員常勤換算配置数	令和 4 年 4 月 6.2 人	令和 5 年 3 月 6.6 人
年間稼働日数	総稼働日数 260 日	休日開所日数 20 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	受託作業	3,043,429 円
	販売事業	1,821,996 円
	内職作業	782,019 円
		計 5,647,444 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 15,500 円	実績 月額 16,254 円



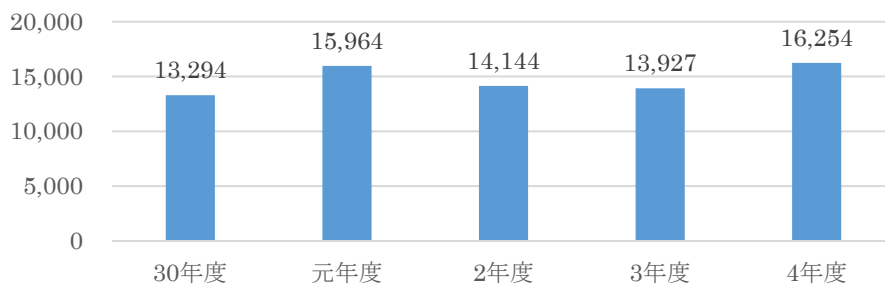
授産売上内訳 (B型)



販売事業内訳 (B型)



過去5年間の平均工賃実績の推移 (B型)



②利用実績 (月別)

【就労移行支援】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	7.6	7.5	7.7	7.2	7.1	7.1	7.7	7.4	7.8	7.9	8.1	7.0
開所日数	22	21	22	22	22	21	22	22	22	20	20	23

【就労継続支援 B 型】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	20.6	20.5	23.7	23.1	20.1	21.4	21.6	21.3	21.3	22.4	23.3	23.9
開所日数	22	21	22	22	22	22	22	22	22	20	20	23

③利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

【就労移行支援】

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	3	1				5
女		2		1			3
計	1	5	1	1			8

(平均年齢 26.1 歳)

【就労継続支援 B 型】

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	3	2	3	6	2	17
女	1	3	1	3	4	1	13
計	2	6	3	6	10	3	30

(平均年齢 43.2 歳)

④障害種別

【就労移行支援】

※重複あり

障害名	利用者数
精神障害	1名
知的障害	6名
身体障害	1名
発達障害	3名
その他	名

【就労継続支援 B 型】

※重複あり

障害名	利用者数
精神障害	24名
知的障害	10名
身体障害	1名
発達障害	5名
その他	名

## 【介護サービス包括型共同生活援助】

# 令和4年度 ゆうあいホーム事業報告

## 1. 運営状況

ゆうあいホームを拠点とし、南紀の台ホーム、なないろ、ほわいとホーム、すてっぷはうすを一体的に運営した。

### ① 利用者の入退所

令和4年度は、定員45名に対して入居者44名から始まり、1名の新規利用者の受入れ、退所者が2名で入居者は43名であった。退所者の退所理由は、死去された方が1名、自宅で家族との同居へ移行された方が1名だった。新規利用者は高齢の同居家族が施設利用する事で单身生活となる生活不安から、グループホームの利用につながった。

### ② 入退院に関して

入院を必要とする利用者は5名だった。自殺企図や精神的な不調を理由に4名が精神科に入院し、内1名は整形でのリハビリを目的として転院するケースもあった。内科的治療が必要となり総合病院に入院した方は1名だった。1週間程度の入院や、3カ月もの長期間の入院を要する事例もあった。

### ③ 職員間で虐待防止の意識を高めるため、事業所内研修を継続して実施した。職員の言動に対する苦情の受付はあったものの、虐待となるような事象には至らなかった。

### ④ 短期入所については、コロナ感染期に受入れを中断していた事もあり、利用者が近隣の利用者に限定され、利用率も低い実績となった。

### ⑤ 新型コロナウイルス感染症への対応

年末から年始にかけて、ゆうあいホームとほわいとホームでコロナ感染が判明し、複数名が感染する事態となった。ゆうあいホームは利用者5名、職員4名の感染が相次ぎ、クラスター施設として認定され、20日間余りの期間、新規利用者の受入れを中断する措置が取られた。ほわいとホームは、利用者3名、職員2名の感染が確認されたが、比較的早期に終息する事ができた。感染した利用者については、重篤化することなく通常の生活に戻る事ができた。

## 2. 事業報告

### ① 生活支援活動

#### (1) 給食の提供（平日の朝食、夕食）を継続して実施した。

年1回、利用者アンケートを行い、給食に対しての意見やメニューに対するリクエストなど、利用者の意向が反映されるように取り組んだ。

#### (2) 休日の食生活を支援するため、必要な方へ仕出し弁当の注文支援や、配食サービス

- の利用、買い物支援などを行った。
- (3) 必要に応じて、血圧や体重、体温などの測定とその記録を行った。診察時の医師への情報提供としても活用した。
  - (4) タバコの吸い過ぎが、健康面や経済面で生活に影響を及ぼす利用者に対して、購入や保管、日々の受渡しを支援することで過剰な接種とならないよう支援した。
  - (5) 入浴や更衣等に一部介助を必要とする利用者に対しては、できる限り同性が支援する体制を確保し、安全に十分配慮した対応となるよう努めた。
  - (6) 居室の状況を見守り、必要に応じて整理整頓や清掃が行き届くよう支援した。洗濯した衣類を片付けられない利用者に対して、衣類を畳んで片付ける習慣が身に付けられるよう働きかけた。
  - (7) 月1回自治会を開催し、レクリエーションの企画立案や実施を支援した。外食や、誕生日会、クリスマス会を開催する中で、利用者同士の交流が深まるよう支援した。
  - (8) コロナ感染症の感染対策もあり、調理実習やお菓子作りは実施しなかった。
  - (9) 移動手段のない利用者も多くなったことで、移動販売車にゆうあい敷地への立ち寄りを依頼し、ゆうあいホーム駐車場において自分で品物を見ながら買い物ができる機会を創出した。
  - (10) ゆうあいホームとほわいとホームに夜間支援員を配置し、夜間を含めて相談対応や服薬等の生活支援、安全管理が行き届くよう支援した。夜間支援員を配置しないホームに対しては、事業所の携帯電話を所持した職員による常時連絡体制を確保した。

## ② 個別処遇関係

- (1) 個別支援計画を作成し、一人一人の生活課題への取り組みや、目標達成に向けて継続して支援した。
- (2) 金銭の自己管理が困難な利用者に対して、その人に合った方法で計画的に使用しながら有効に使い、可能であれば貯蓄していけるよう支援した。出納簿の記載を徹底し、不安の多い利用者等への情報開示も適宜対応した。
- (3) 服薬の自己管理が困難な利用者に対して、薬の仕分けや保管、服用に関して必要な支援を行った。その人に合った方法で対応する事に努め、誤薬を防ぐため丁寧な対応を徹底しつつ、ヒヤリハット事例を職員間で共有しながら、支援方法の見直しを随時行った。
- (4) 個人で医療機関を受診することが困難な利用者や、医療機関から職員の同行を求められた際には、受診同行を行った。薬の処方内容が変更となったケースに対しては、その後の経過を含めて受診の同行を継続し、日常の状況を報告する事で主治医に適切に診察してもらえるよう支援した。
- (5) 相談支援専門員等、関係機関の職員との意見交換や情報共有に努めた。

- (6) 個別な相談対応を必要とする利用者も多く、適切な相談支援を行うように努めた。対応においては、動機付け面接法の技法を取り入れた形で対応する事を意識し、利用者との関係性を維持しながら対応できるように努めた。

### ③ 短期入所事業

- (1) 利用者は2名で、延べ利用日数は51日だった（平均利用0.2名）。
- (2) 利用者2名の出身市町村は田辺市の方で、遠方からの利用は無かった。
- (3) コロナ感染の状況から受入れを中断している期間が長く利用実数が少なかった。感染者が発生していない状況においては、体調確認を行いながら受入れていく事とした。

### ④ 日中一時支援事業

- (1) 利用相談がなく、実際の受入れケースは無かった。

### ⑤ 田辺市自発的活動支援事業

- (1) 法人内各事業所から実行委員を募り実行委員会を開催し、企画の内容についての検討や準備、事業の実施運営を行った。
- (2) 当事者活動として、シーカヤック乗船体験、アウトドア体験交流会、ボードゲーム交流会を開催した。地域の理解者を増やすために、発達障害やアディクシオンをテーマにした研修会も開催した。また、障害児者親子ダンスクラブの活動支援も例年通り行った。
- (3) コロナ感染症の状況により、感染対策を取った上での事業実施に努め、事業を介しての感染事例は無かった。高校生とのスポーツ交流事業は、開催前日に高校生、法人利用者双方に感染確認があった事から、やむなく中止する事とした。

## 3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) ほわいとホームにおいては、地域の清掃活動に参加し江津良浜の海岸や河川の清掃に協力した。
- (2) バザー物品等の施設に保管している備品の貸し出しは無かった。
- (3) ふれあい文化祭実行委員会に担当者を派遣し、文化祭の開催に協力した。また、法人内各事業所からの参加に関する調整窓口としての役割を担った。
- (4) 資格取得を目指す実習生を受入れ、現場での実務研修に協力した。

## 4. その他の活動

- (1) 職員に対して、動機付け面接法や介護技術に関する研修機会を持ち、受講した職員からフィードバックの機会を設けた。内部研修として人権研修や対人援助の基礎

研修を取り入れ、事業所内でのハラスメントや虐待を防止するための取り組みを行った。

- (2) 家族懇談会の実施は見送り、近況報告と行く形で報告書を送付する対応を行った。
- (3) 白浜町福祉サービス事業所連絡会に可能な限り参加協力した。
- (4) わされんGH委員会にオブザーバー参加し、県下のグループホームの状況について、情報の共有に努めた。
- (5) 紀南こころの医療センターデイケアとの連携会議を年2回(9月・3月)実施し、利用者の状況の共有や、連携した支援の構築に努めた。
- (6) 新型コロナウイルスの感染予防に努めたが、年末年始にゆうあいホーム、ほわいとホームで感染拡大を招くこととなった。
- (7) 紀南こころの医療センターに入院中の方で、宿泊を伴わない体験利用の実施に協力した。

## 5. 行事報告

- (1) コロナ感染の比較的少ない時期に外食レクやバーベキューなどのレクを開催した。
- (2) 自治会主催の誕生日会を定期的で開催した。
- (3) 日中事業所等で検診を受けられていない利用者に対して、健康診断を受けられるよう支援した。また、特定健診の通知のあった利用者については、本人の希望に基づいてその検査を受けられるよう支援した。
- (4) 防災訓練を年2回実施し、火災や水災害などに対応した訓練を実施した。

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【介護サービス包括型 共同生活援助】	
定員	令和4年4月 45人	令和5年3月 45人
実利用者数	令和4年4月 44人	令和5年3月 43人
1日平均利用者数	令和4年3月 42.6人	令和5年3月 41.3人
職員常勤換算配置数	令和4年4月 13.5人	令和5年3月 12.8人
年間稼働日数	総稼働日数 365日	休日開所日数



② 利用実績（令和4年度月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	42.6	42.3	41.6	40.8	40.2	41.3	41.3	42.1	41.1	40.5	40.6	41.3
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

年間平均利用者数：41.4人

【内訳】 ゆうあいホーム：16.9人 ほわいとホーム：9.2人 南紀の台ホーム：6.1人  
 なないろ：6.8人 すてっぷはうす：2.5人

③ 利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	0	5	3	4	9	4	3	28
女	0	1	1	4	5	3	1	15
計	0	6	4	8	14	7	4	43

④ 利用者の区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
人数	7人	17人	14人	4人	0人	1人

⑤ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	33名
知的障害	10名

## 【訪問介護等事業】

# 令和4年度 訪問介護支援センターくりっぷ事業報告

## 1. 運営状況

昨年度に引き続き、独立採算可能な状態にするために新規利用者の獲得に努めるとともに、質の高いサービス提供に向け研修を充実させた。また、職員体制の充実を図り常勤職員を1名増やし職員の増員を行った。

## 2. 事業報告

### (1) 事業概要

#### ① 身体介護（居宅介護・訪問介護）

- 入浴介助…入浴の介助又は、入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- 食事介助…食事の介助を行った。
- 体位変換…体位の変換を行った。

#### ② 家事援助（居宅介護・訪問介護）

- 調理…利用者の食事の用意を行った。
- 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- 掃除…利用者の居室の掃除を行った。
- 買い物…利用者の日常生活に必要な物品の買い物を行った。

#### ③ 通院介助（居宅介護）

- 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

#### ④ 移動支援（居宅介護）

- 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

#### ⑤ 同行援護

- 視覚障害者を対象とした外出支援を行った。

・

#### ⑥ 個別処遇関係

- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービス

の提供を行った。

### 3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし

### 4. その他の活動

(1) 特になし

施設名	訪問介護支援センター			
利用者数	R4年4月 39人		R5年3月 54人	
登録ヘルパー数	R4年4月 14人		R5年3月 14人	
年度中の入退所者	入所	15人		
	退所	人		
	休止中	人		
	総合支援 47人		介護保険 7人	
利用市町村内訳	田辺市	33人	田辺市	6人
	白浜町	8人	白浜町	1人
	みなべ町	4人	みなべ町	人
	上富田町	1人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	1人	その他	人

昨年度実績

田辺市	31人
白浜町	6人
みなべ町	2人
上富田町	人
すさみ町	人
その他	人

## 【就労継続支援 B 型】

# 令和 4 年度 陽だまり事業報告

## 1. 運営状況

令和 4 年度の陽だまりは登録者 29 名でスタートし、3 月末時点での登録者は 31 名であった。利用者数の内訳は新規利用者が 2 名であり、退所者はなかった。

令和 4 年度は月の平均利用率が 20 名を下回る事は一度もなく、年間平均利用率も 22.2 名と、開所して 12 年間の中で 10 年以上は年間の平均利用率が 20 名を超えている。

令和 4 年度は下記の 7 つの実践に注力して取り組みを行った。特に「vii・受診同行の見直し」については、精神疾患以外の様々な身体疾患（ガン、腎盂腎炎、脊柱管狭窄症等）を発症する利用者が年々増加してきており、身体疾患者のサポートも必要となってきたので、受診支援の在り方について大幅に見直しを行い、受診サポートを積極的に行った。

- i 各相談事業所の相談員との定期情報交換
- ii デイケア（紀南こころの医療センター）との定期会議の実施、情報の共有
- iii 法人内事業所との情報交換
- iv 法人外事業所（A 型事業所等）の情報交換及び退所者の受け入れ（リスタート）
- v 家族会等への啓発・啓蒙活動
- vi 「癒し」「憩い」「安心」の特色を出したセラピー活動の継続
- vii 受診同行の見直し（受診サポートの創設）

## 2. 事業報告

### ① 就労支援活動

#### (1) 授産活動

##### i 亀井商店（トイレ掃除用ブラシ包装、掃除用スポンジ包装）

コロナ禍の影響が非常に大きく、令和 4 年度も高単価（1 個 5 円）の作業であった掃除用スポンジについて全く入荷がなかったため、前年に引き続き上記の商材に代わる商品として、トイレ掃除用ブラシの包装作業を年間約 11 万個の納品ノルマを承諾し、授産収入の大幅減を防ぐ事ができたが、利用者の高齢化等に伴い、全体の作業力（スピード、量など）が低下してきたため、委託を受けていた作業量を減らし、その減った作業については、新たに引き受けてくれる事業所を探した事で、相手先である亀井商店に迷惑を掛ける事なく、任された量を完了する事ができた。

##### ii OFM（電子部品組み立て）

ここ数年は最盛期に比べると半分以下の量で推移してきており、令和 4 年度は前年

度と比較して、少しではあるが増加となった。

iii こころの売店（紀南こころの医療センター内売店業務）

入院患者の高齢化に伴い、病棟の規模の縮小などが影響して年々売上げが減少傾向にある中で、令和4年度も院内（紀南こころの医療センター）でコロナウイルスによるクラスターが発生するなど、その影響で売上げの減少を防ぐ事ができなかった。

iv 夏季・冬季物販販売活動（そうめん、ちゃんぽん）

これまでの物販販売（そうめん、ちゃんぽん）において、純利益が50万円の年度もあったが、コロナウイルスによる買い控えなどの影響で、令和4年度の純利益は約33万円と最盛期に比べると20万近くの減収であった。

v チョコレート販売（売店ピュア、ビッグU、喫茶ゆうとぴあ）

コロナ禍以来、売上げは毎年下降線をたどっていたが、令和4年度は前年度と比較しても、大きく減収になる事はなかった。

vi 農事について

これまでは集団が苦手などの利用者に対しても、作業支援が提供できるように畑作業を行ってきたが、利用者の高齢化や熱中症等の関係で令和4年度は農事が全く実践できなかったため、令和5年度の上半期内に紀南こころの医療センターとの畑使用契約を解消する。

② 生活支援活動

(1) 生活支援

i 施設内清掃や給食片付け等の日常生活訓練

施設内の掃除や食器洗い等を日々行う事によって、日常生活の能力を維持すると共に、自治会などで相手を見ない、仲間外れにしないなど、共通の問題を全体で共有し、どのようにすればその問題が解決できるのかを話し合いを重ねるなど、個々の能力向上を目指す事を目標に取り組みを行った。

ii 身だしなみや服装の確認

尿の臭いや衣類の汚れが目立つ利用者に対して、聞き取りを行った結果、洗濯が苦手でやり方が分からないなど理由が判明したので、実際に施設の設置している洗濯機を使って、苦手なことを克服できるように支援を行った。

- iii レクリエーションのバリエーション化  
令和4年度の後半はコロナ禍の影響が少し治まってきた時期があったので、そのタイミングで、感染対策を徹底しながら外食、ドライブなど施設外に出掛け、これまでの自粛で溜まっていた日々のストレスが発散できるような取り組みを行った。  
また、コロナウイルスの感染拡大期は、安全に実践できる取り組みとして、施設内で美容教室、eスポーツ、園芸、ユーチューブ鑑賞などを行った。
  - iv 余暇活動  
コロナの発生状況に考慮しながら、月2回は土曜日開所を行い、利用者が余暇を楽しめるように、宝探し、DVD鑑賞や音楽鑑賞（ユーチューブ）、ドライブ等を行った。
- (2) 健康管理
- i 健康診断の実施  
白浜はまゆう病院（白浜町）で利用者の健康診断を行った。
  - ii バイタルチェック  
毎年実施している健康診断の中で、10名以上が糖尿病や高血圧と診断されており、自力で血圧測定ができない利用者に対してサポートを行った。  
また、極端に数値が高い場合は家族や関係機関に連絡を取り情報の共有を図った。
  - iii ラジオ体操や朝礼後の散歩  
利用者の健康管理の一環として、朝礼後に全員でラジオ体操を行い、その後に近隣の新庄公園に散歩に行き健康促進を行った。  
但し、真夏の時期は熱中症予防として、また真冬の時期は血圧などの体調に配慮して散歩は中止し、施設内で行える安全ストレッチを行った。  
また、夏場を常に施設内でお茶を用意して、熱中症対策を徹底し、冬場は室内温度に配慮しながら換気を徹底した。
  - iv 往診治療の実施  
生活保護受給以外の利用者で、変形性膝関節症や椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症などの影響で痛みがあり、通所が困難な状態にある利用者を中心に、鍼灸医が週一回往診に来て毎回5～7名の利用者が治療を受けた。
- ③ 個別処遇関係
- 個別支援計画の作成

利用者のニーズや課題を具体化して、その計画書に沿って支援を行った。

### 3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 令和4年度もコロナ禍の中であったが、感染状況の見ながら感染対策を徹底する中で看護学生（熊野高校看護科、東京福祉専門学校）の受け入れを行った。
- (2) 地域（田辺市内）の小中学校の保護者会からの依頼で、夏前や秋口の草刈りの繁忙期に草刈り機の貸し出しを行った。

### 4. その他の活動

- (1) 避難訓練（2回／年）  
防災訓練や消防訓練は毎年実施しているが、避難訓練や消防訓練だけでは「油断」や「慣れ」が出てきてしまうので、映像を流して可視化する事で、防災意識の大切さを再認識出来るように訓練を行った。
- (2) 施設建物安全点検(1回／月)  
施設は二階建てであり、休憩時や給食時に外階段を利用するが雨などで滑りやすくなっていないかなど、事故や怪我が発生しないように定期的に確認を行った。
- (3) 職員のメンタルヘルス  
毎年秋に実施している希望調書では、職員1名に対して、じっくりと時間を掛けて面談を行い、異動希望についてや、業務やメンバー支援についてなど、様々な内容について面談を行ってきたが、それ以外でも各職員とは必要であれば随時に面談等を行い、業務過多になっていないかなど、定期的に確認を行った。

### 5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	7	花見&歓迎会	
	12	自治会	
	19	スポレク	
	26	釣り&室内レク	
5	10	自治会	
	17	スポレク	
	24	買い物支援	
6	7	自治会	
	14	買い物支援	
	21	あじさい鑑賞	
	28	スポレク	
7	1	看護生実習	
	7	外食	
	8	スポレク、看護生実習	

	12 15 29	自治会 看護生実習 納涼会	
8	9 10 23 30	自治会 大掃除 外食（モスバーガーテイクアウト） クラブ活動（ヨガ）	
9	13 20 22 27	自治会&誕生日会 買い物支援 ドッグセラピー（まりんちゃんと川遊び） クラブ活動	
10	11 14 21 24 25	自治会 利用者健康診断 BBQ 利用者健康診断 スポレク	
11	4 8 18 22 29	白浜 T シャツひらひらアート 自治会 日帰り旅行 スポレク クラブ活動	
12	13 20 23 28	自治会 買い物支援 クリスマス会 大掃除&忘年会	
1	4 10 17 24	初詣 自治会 買い物支援 クラブ活動	
2	14 17 21 28	自治会 梅林 クラブ活動 外食	
3	14 24 28 31	自治会 クラブ活動 買い物支援 忘年度会	

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
	令和 4 年 4 月	令和 5 年 3 月
定員	20 人	20 人
実利用者数	29 人	31 人
1 日平均利用者数	22 人	23.2 人
職員常勤換算配置数	令和 4 年 4 月	令和 5 年 3 月



	5人	5人
年間稼働日数	総稼働日数 258日	休日開所日数 20日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	受託請負	660,000
	内職作業	1,124,047
	自主製品(チョコレート)	184,705
	物販(そうめん、ちゃんぽん)	326,280
	その他(写真代等)	28,234
		計 2,323,266円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 10,000円	実績 月額 7,120円

② 利用実績(月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	22	21	22	22	20	22	23	22	21	20	20	23
平均利用者数	22	21.6	23	21.5	23.1	21.5	21.3	22	23	20.6	23.2	23.5

③ 利用者の性別・年齢層(令和5年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男			1	6	4	8	19
女		1	2	2	6	1	12
計		1	3	8	10	9	31

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	22名
知的障害	7名
身体障害	1名
手帳未取得	1名
その他	0名

## 【就労継続支援 B 型】

# 令和 4 年度 ハモニティ事業報告

## 1. 運営状況

令和 4 年度ハモニティは、定員 20 名、登録者 27 名でスタートする。例年に比べ、利用者の入退所が多く、年度内の新規利用者は 6 名、退所者は 7 名であった。退所者 7 名の内訳については、他法人 B 型事業所への移行が 2 名、A 型事業所への移行が 1 名、県外への転居が 1 名、サービスの利用をやめるが 1 名、死亡が 2 名であった。新規利用者については、退院後 1 名、他法人 A 型事業所から 1 名、サポステから 1 名、地域から 3 名という状況であった。

## 2. 事業報告

### ① 就労支援活動

#### (1) 請負作業

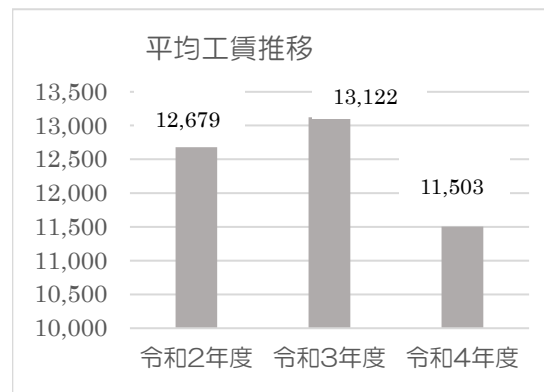
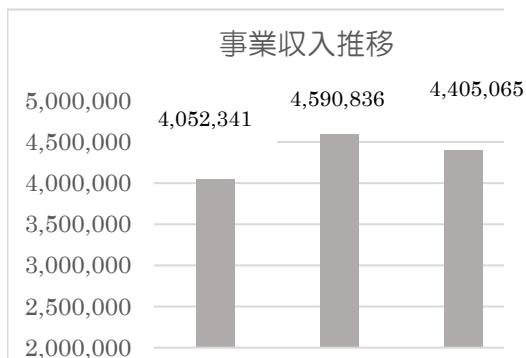
- i 亀井商店（洗浄用スポンジ包装、ボディータオル包装など）
- ii OFM（電子部品）
- iii 紀伊民報（新聞帯封）
- iv 田辺市職員共済会（市民総合センター内売店運営）
- v 紀州うめまさ(梅商品包装、DM 印刷等)
- vi 福梅本舗(梅賞品包装)
- vii UES（絨毯見本帳作成、災害用簡易トイレの包装、日用商品包装など）

#### (2) 古紙・空き缶・古着回収

#### (3) 印刷物受注販売

#### (4) 自主製品製造販売（竹箸・キーホルダー）

## 【事業収入及び平均工賃推移】



※令和3年度と比較すると、事業収入は微減、平均工賃は大きく下回った。要因としては、作業従事時間が少ない利用者が増えたことと、全体として、令和3年度293人だった支払い対象者数が令和4年度では326人と増えたことが考えられる。

## ② 生活支援活動

### (1) 日常生活

- i 清掃や食器洗いの習慣的な取り入れ。
- ii レクリエーションの機会を使った買い物支援。
- iii 茶話会やドライブなどの余暇活動。

### (2) 健康

- i 健康診断の実施（白浜はまゆう病院）。
- ii ラジオ体操や体重測定
- iii レクリエーションの機会を使った散歩や軽い運動。

## ③ 個別処遇関係

### (1) 個別支援計画の作成

### (2) 各種サービスや資源の情報提供と活用のための援助。

### (3) ケース会議やケア会議の開催、介護事業所との連絡調整、関係機関との連携。

## 3. 地域交流・地域貢献活動

### (1) 古紙・空き缶・古着回収事業を通して地域の方々との交流。

### (2) 併設道路脇の除草作業の実施(4回/年)。

## 4. その他の活動

### (1) 避難訓練(2回/年) 令和4年11月24日・令和5年2月16日

### (2) 施設建物安全点検(1回/月)

### (3) 車両点検(1回/月)

## 5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	7 14 21	公園散策 釣り&ボードゲーム 買い物	平草原 湊浦漁港 パビシ
5	12 19	ドライブ 買い物	白浜水族館 パビシ
6	9 16 23	ドライブ 買い物 ボードゲーム	印南かえるの港 パビシ 麻雀、将棋
7	7 14 21	食事会 買い物 茶話会	施設内(そうめん&お寿司) ワークマン、セカスト わらび餅

8			
9	22 23	買い物 食事会	パビシ 施設内にて焼肉ランチ
10	13 20	買い物 1日レク	パビシ 串本海中公園
11	10 17 26	買い物 紅葉ドライブ 避難訓練	パビシ 近露方面 地震火災想定
12	8 9 22	茶話会 買い物 忘年会&クリスマス会	プリン しまむら・プライスカット 施設内でお弁当とゲーム大会
1	4 12 26 27	初詣 茶話会 利用者健康診断 利用者健康診断	鬮鶏神社 ぜんざい はまゆう病院 はまゆう病院
2	3 9 16 18	利用者健康診断 観梅 防災訓練 ふれあい文化祭	はまゆう病院 みなべ梅林 地震想定 ハナヨアリーナ
3	9 23	茶話会 外食レク	イチゴ 和わ

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 4 年 4 月 20 人	令和 5 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 4 年 4 月 27 人	令和 5 年 3 月 26 人
1 日平均利用者数	令和 4 年 4 月 18.4 人	令和 5 年 3 月 18.4 人
職員常勤換算配置数	令和 4 年 4 月 6 人	令和 5 年 3 月 6 人
年間稼働日数	総稼働日数 259 日	休日開所日数 22 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	受託請負	3,221,837
	古紙, 空き缶, 古着	532,398
	印刷	561,120
	自主製品	34,550
	その他 (バザー・物品販売等)	55,150
		計 4,405,055 円

工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 13,500 円	実績 月額 11,503 円
-----------------	---------------------	-------------------

② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	18.4	20.6	21.3	19.0	19.4	21.1	20.9	20.7	21.3	18.4	19.7	18.4
開所日数	22	21	22	22	21	22	22	22	22	20	20	23

③ 利用者の性別・年齢層 (令和5年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	1	4	5	6	3	19
女	0	0	2	2	2	1	7
計	0	1	6	7	8	4	26

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	13名
知的障害	5名
身体障害	名
手帳未取得	8名
その他	名

## 【障害者就業・生活支援センター事業】

# 令和4年度 紀南障害者就業・生活支援センター

## アンカー事業報告

### 1. 運営状況

田辺市及び西牟婁郡とみなべ町を圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続けられる」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行いました。

実施事業では、臨床心理士を講師に招いた「検査結果を支援に繋げる」では、A型サービス事業所、就労移行事業所、B型サービス事業所で訓練を受けながら、アンカー登録をしている対象者のサービス事業所と、検査結果を目にする機会のある相談機関に研修案内を絞りました。分析をしどの部分にアプローチをしていくなどの学びになりました。在職者の交流活動支援では、ワーカーズクラブの中で昨年度同様にグループワークを行い、前向きに捉えられるテーマとして『休日の過ごし方』『今一番頑張っていること』『10年後の自分に褒めたいこと』の意見交換会を行いました。頑張っていることはあるが、自分を褒めることはできない感じでした。もう1つの研修では、「悪徳商法について」で講師を招き研修を行いました。後日、似た事例があり相談に行きましたが、結果喪失してしまつて悪用されたケース対応がありました。未だ解決していません。

利用者相談や就労支援の状況は以下の内容になります。

#### ①新規登録者、利用者の傾向

- ・医療機関からの職業検査の依頼、一般高校卒業後、離職されたケース、田辺産業技術専門学院での委託訓練終了後の支援相談となっています。福祉サービスで訓練を希望する方が少なく、一般就労の実習まで面談を重ねて関係作りをしています。相談時点で見えてなかった生活問題で、家族の関わりに調整が必要なケースもありました。
- ・関係企業から一般在職者の相談もありました。実際に企業担当者と対象従業員が面談し、当センターに繋がったケースもありました。どのように対応すればいいのか相談を受けるケースもありました。上司から見ると、障害があるのではないかと対応に苦慮されているようでした。

#### ②他府県への移住後の関わり、移住受入れ

- ・東京都への移住後の連携。昨年度末に移住された方が利用する支援機関から情報提供依頼、本人よりメールにて近況報告やどのように考えればいいのかなどの相談がしばらく続きました。新しい支援機関との関係性ができていない中での不安等の内容でした。年金取得が難しい方で、収入確保に焦りがあり、「いつ就職できるのだろうか」、「思っていたより企業の求めるものが厳しかったり」、1企業に複数人の障害者が働い

ていることでのコミュニケーションへの不安が多かったです。12月より就職への準備が進み、金銭面の不安は和らいだようです。

・他府県より移住相談がありました。西牟婁圏域で働いているときに脳梗塞で身体障害者となってしまったケースです。企業や生活面での福祉サービス調整が必要となり、移住前に企業訪問を行い、今後の方向性について調整しました。休職前までの評価が良く、スムーズな受け入れをしてもらうことができ、リハビリ出勤をしながら、段階をおっての復職となりました。生活面では圏域相談事業所も交え、リモート面談を何回も重ねながら、移住してきて際にスムーズな支援を行えるように準備を進めることができました。

### ③精神的不安定

・長期就労されている方が、休職される傾向が目立ちました。13年勤務されていた方が、生活習慣病をきっかけに希死念慮が発生し、家族の疲弊も大きくなってきたため入院を余儀なくされました。その結果、退院に向けて外泊中に自死してしまう結果となりました。就業センター事業を初めて在職中に当事者が亡くなってしまうことが案件となりました。

・処方変更に伴い精神的不安定となってしまった方が2名おられました。1名は主とする精神薬に発癌性リスクがあることで製造中止になり、処方をいきなり変更しないといけないことから、身体不調となり妄想等の再発になってしまい、勤務時間を一時的に減少してもらう配慮を受けました。もう1名の方は、糖尿病発症により、主とする精神薬を変更しないといけない状況になりました。糖尿病悪化より精神面安定を優先に医療機関に本人が相談しましたが、医師としてその処方できないとの返答でした。GH生活でもあり、精神不調から地域生活での問題行動で、警察介入となることもありました。同時に職場での対人関係も悪化し、休職したものの復職が望ましくないだろうとの判断で離職を余儀なくされました。収入面の厳しさ、GH生活で同居人への影響も出てきたため退居となり自宅生活に移行となりましたが、なかなか安定することができず、家族疲弊より医療保護入院となりました。

・日常生活における不潔恐怖により、強迫性障害が強くなり、仕事に行くことで、強迫性の軽減を試みていましたが、アスペルガー症候群の特性から、自分ルールが強くなり、仕事に行く準備がうまくいかず、寝る時間も削ってしまう状況になりました。職場でも自分が納得する方法を用いてしまうため、さらに状態が悪化し休職することを選択しました。

・休職対応として精神保健福祉手帳を所持している方で、精神的に不安定になっての休職3名、入院（内1名）、退職（内2名。1名自死）。療育手帳所持者の一過性からの精神的不調での休職（1名）となっています。

### ④生活面での影響

・近年、知的障害の方が精神的不安定になり、幻覚や幻聴症状、放心状態が一時的に

発症してしまうケースが出ています。今年度も1名の方が短期に休職するケースがありました。生活背景にゲームが大きく影響しているようにも感じます。1～2ヶ月ほど休息すること（ゲームストップ）で回復は見られています。

・健康診断で疾患が見つかり、そのことから精神的不安定になってしまった方がいました。特定健診は受けているものの、各種検診を受けていないことから、疾患の発見が遅くなってしまい、長期的に休んでの治療が必要な方も出ました。

#### ⑤定期的面談の増加

・過去対人トラブルにより、就職した当事者に対し、定期面談を行っています。職場での問題を早期に対応することで、対人関係トラブルを防ぐように支援しています。職場を訪問しその場でできる支援、時間を設けてゆっくり話をしないといけない支援が増えていきます。本人の考えも聞き、場にあった言動が相手にどのような影響を与えるのか、どのようにすればうまく回避できるかの助言をしました。対象者の割合では、精神疾患と発達障害（精神手帳所持者）に偏っています。

## 2. 事業報告

### ① 就労支援活動

#### 1) 就職に向けた準備支援（職業準備訓練・職場実習の斡旋）【随時】

・体験職場実習、企業内授産、インターンシップ事業活用時の同行支援

#### 2) 求職支援活動【随時】

- ・ハローワークへの同行等による求人検索
- ・地域新聞等広報紙による求人への相談と対応
- ・独自の企業開拓
- ・他府県への移住、転職希望者への移住先支援機関との調整（リモート含）

#### 3) 職場定着支援【随時】

- ・ジョブコーチによる職場定着支援（訪問型職場適応援助者）【8件】
- ・就職後の作業支援（指導）、就労後数年経過した企業への不定期巡回訪問
- ・職場、生活面での相談対応

#### 4) 障害者活躍推進計画の作成のため国等の期間が設置・開催する検討会等への参画 【要請なし】

#### 5) 事業所に対する障がい者の障害特性を踏まえた雇用管理に関する助言

#### 6) ピアサポート活動の実施【9/28】

#### 7) 関係機関との連絡調整・会議

- ・運営協議会の開催【3/8】
- ・和歌山県障害者就業・生活支援センターNW会議【6/6、11/14、3/9】
- ・特別支援学校連絡会【月1回】
- ・ハローワークとの連絡会議【7/27、3/13】



- ・定着支援事業所との連携【4事業所 各事業所毎月1回】
- ・全国就業支援NW定例研究会参加【10/21、10/22】
- ・近畿ブロック経験交流会【11/16】
- ・西牟婁圏域自立支援協議会就労支援部会参加【7/8、10/14】
- ・圏域内就労移行事業所1カ所との連携会議【月1回】
- ・セミナー等の開催【未実施】
- ・和歌山障害者職業センターとの連携（月1回・職業評価、拡大ケース会議）  
【職業評価22名 拡大ケース会議21名】
- ・和歌山県発達障害者支援センターとの連携（アドバイザー委託）【未実施】
- ・各研修会学習会への職員派遣【集合参加又はオンライン参加】
- ・移行事業所職員・当事者への作業基礎訓練実施（JSTトレーニング）【9/12】

## ② 生活支援活動

- 1) 生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言【随時】
  - ・医療同行、服薬管理についての助言、金銭管理
- 2) 住居、年金、余暇活動など地域生活、生活設計に関する助言【随時】
  - ・行政手続き補助および代行
  - ・ワーカーズクラブの活動補助
- 3) 関係機関との連絡調整・会議
  - ・全国就業支援NWによる生活支援ワーカー研修会【不参加】

## ③ 個別処遇関係

- 1) ジョブコーチ支援の実施【訪問型職場適応援助者対応：11件】
- 2) A型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応：5件】
- 3) B型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応：10件】
- 4) 個別ケースにより家庭訪問、グループホーム訪問の実施【随時】
- 5) 定期的な面談が必要な利用者への対応（リモート面談希望者にはリモート対応）  
【13名、リモート希望なし】

## ④ 余暇活動支援

- 1) 職場定着促進のための在職者交流活動【7回、内2回研修】  
ワーカーズクラブ活動補助

## 3. 地域交流・地域貢献活動

【特になし】

#### 4. その他の活動

- ① 障害者就業・生活支援センター事業についての学習会【4/7、4/5】
- ② 職場実習支援制度や障害者雇用支援制度の学習会【4/7、情報提供】
- ③ 就職に向けてのプロセスの学習会【8/30、10/14】

#### 5. 行事報告

月	日	就労	生活	在職者交流活動
4	5	在職者の交流活動	在職者の交流活動	定例会議（総会）
5	10	在職者の交流活動	在職者の交流活動	定例会議
6	6 7	県下7センター会議 在職者の交流活動	在職者の交流活動	研修『グループワーク』
7	5 8 27	在職者の交流活動 自立支援協議会研修 ハローワーク連絡会	在職者の交流活動	定例会議
8				
9	21 26 28	県下7センター研修会 自立支援協議会定例会		ピアサポート
10	4 15 21 22	在職者の交流活動 在職者の交流活動 全国NW定例研究会 全国NW定例研究会	在職者の交流活動 在職者の交流活動	定例会議 日帰り旅行
11	8 8 14 16	和歌山県自立支援協議会 在職者の交流活動 県下7センター会議 近畿ブロック交流会	在職者の交流活動	研修『悪徳商法について』
12	6 20	在職者の交流活動 主任職場定着支援担当者 交流会	在職者の交流活動	定例会議
1	25	県下7センター研修会		
2	7 10 11 18 24	在職者の交流活動 全国NWフォーラム 全国NWフォーラム 全国NW研修	在職者の交流活動	研修『交通安全教室』  食事会
3	7 8 9 13 20	在職者の交流活動 運営協議会 県下7センター会議 ハローワーク連絡会 検査結果から支援に繋げ る	在職者の交流活動 運営協議会	定例会議

数値実績

①利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	12	76	30	34	22	6	180
女	4	34	23	23	12	1	97
計	16	110	53	57	34	7	277

②障害種別

障害名	利用者数
精神障害	100名
知的障害	157名
身体障害	17名
手帳未取得	0名
その他	3名

③実績数値

	身体	知的	精神	その他	合計
相談・支援件数	216	4,544	3,047	15	7,822
職場実習件数	0	34	18	0	52
就職者数	2	14	14	0	30
職場訪問による定着支援	117	886	1,033	4	2,040

就職率（一般企業への就職者数／新規求職者数） 68.2%

定着率（前年度就職者の6ヶ月後、1年後の在職率）6ヶ月後 91.3%、1年後 87.0%

## 【地域活動支援センターⅢ型】

### 令和4年度 紀南地域活動支援センターSHIP 事業報告

#### 1. 運営状況

例年通り田辺市より事業を受託し、施設通所になじまない方々の場所として活動を行ってきた。サロンを中心に利用する方を主に、注文時には缶バッジ作成、ラベルシールの作成を行ってきた。ラベルシール作成については今年度末をもって終了となる。一部の希望者については紀南障害者就業・生活支援センターへの登録や就労のための職場実習などの就職活動もサポートしてきた。

体力維持（増加）を図りレクリエーションについてはスポーツを主に行ってきた。

#### 2. 事業報告

##### ① 就労支援活動

内職作業としては缶バッジ製作・ラベルシール作成などを行う。イベント等の開催も若干あり、缶バッジの受注は微増となった。希望者については就業センター実習への参加を勧めた。

##### ② 生活支援活動

(1) レクリエーション活動を通じてスポーツ、調理実習、外出活動を行ってきた。

##### ③ 個別処遇関係

(1) 受診同行、生活相談については当事者ニーズに伴い対応。

(2) サービス事業所への移行者はなし。

#### 3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし

#### 4. その他の活動

(1) 一部利用者のワーカーズ活動参加。

## 5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4		スポーツレクリエーション (10回)	
5		スポーツレクリエーション (9回)	
6	2 15	スポーツレクリエーション (13回) 絵画鑑賞 (県美術展白浜展) 調理実習 (あんみつづくり)	
7	4	スポーツレクリエーション (8回) 陶芸教室 (いおり)	
8	6	スポーツレクリエーション (3回) 絵画鑑賞 (田辺市立美術館)	
9	12	スポーツレクリエーション (10回) 映画鑑賞 (田辺文化会館)	
10	26	スポーツレクリエーション (11回) 絵画鑑賞 (田辺市立美術館)	
11		スポーツレクリエーション (9回)	
12	19	スポーツレクリエーション (5回) 絵画鑑賞 (紀南文化会館)	
1		スポーツレクリエーション (5回)	
2	20 28	スポーツレクリエーション (5回) 観梅 縫製	
3	10 23 24	スポーツレクリエーション (3回) ボウリング 調理実習 絵画鑑賞 (田辺市立美術館)	

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【地域活動支援センターⅢ型】	
	令和4年4月	令和5年3月
定員	10人	10人
実利用者数	20人	18人
1日平均利用者数	9.8人	8.9人
職員常勤換算配置数	2人	2人
年間稼働日数	総稼働日数 240日	休日開所日数 0日

授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	内職関係	40,848
	職場実習	352,058
	合計	392,906円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 円	実績 月額 1,485円

② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	9.8	9.6	9.2	9.5	8.9	8.1	9.1	7.4	7.7	7.9	8.4	8.9
開所日数	20	19	22	20	19	20	20	20	20	19	19	22

③ 利用者の性別・年齢層 (令和5年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	7	3	1	1	0	12
女	0	4	1	1	0	0	6
計	0	11	4	2	1	0	18

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	8名
知的障害	10名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

## 【外部サービス利用型 共同生活援助】

# 令和4年度 サンヒルズ事業報告

### 1. 運営状況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）・アップル（従）・レモン（従）・みなべ鹿島ホーム（従）・浜市社宅（従）

サンヒルズを主とし定員30名、職員配置4：1での支援を行ってきた。

#### ① コロナ禍での利用者の動向

法人からの通達を踏まえ、職員・利用者ともに感染予防に努めるよう指導を行ってきた。ほとんどの利用者はコロナ禍での生活をうまく過ごせていた。就労先企業もコロナの影響はあるものの、勤務時間短縮や欠勤要請もなく、ある程度の収入を確保することができていた。3月下旬、レモン利用者の体調不良から検査結果陽性となり同居利用者3名も陽性となる。約10日の隔離生活を経て回復に至ることとなった。

#### ② 浜市社宅の統合

浜市社宅利用者の健康問題等から、みなべ鹿島ホームへの引っ越しを3月に行い、浜市社宅を終了とした。

#### ③ 入所・退所者の内容

入所者0名。

退所者2名。

A氏＝精神的不調からホーム内外での問題が多く、自宅へ戻ることになった。その後は離職・入院となる。

B氏＝身体的症状から入院・手術。以後、生活の拠点をホームから医療関係へ移行。

#### ④ その他

高齢化問題・利用者の健康問題・知的障害者の生活スキルの問題は継続され増加傾向である。高血圧・糖尿病患者、またその予備軍への食事・運動等の助言。緑内障患者の医療送迎。成人病への不安相談などが増加傾向。

一般就労継続者の諸問題から、福祉サービスへの移行者が微増傾向。

## 2. 事業報告

### ① 就労支援活動

(1) 世話人の利用者実習先・就職先への訪問支援。

### ② 生活支援活動

- (1) やおき福祉会活動日の朝食・夕食提供。
- (2) 生活指導（清掃・服薬・身だしなみ・休日の食事・買い物他）
- (3) 医療同行（精神科通院同行、その他の医療機関への同行）
- (4) 悪天候時の出勤支援は希望者・対象者がいなかった。
- (5) 世話人の研修については伝達研修として虐待防止を開催。

### ③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援計画等の作成
- (2) 就職相談、定着相談、金銭管理、個別の悩み相談他

## 3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 特になし（各ホームで町内会加入）

## 4. その他の活動

## 5. 行事報告

毎月第一火曜日 ワーカーズ会議への参加

月	日	行事等	備考
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10	15	日帰り旅行（東牟婁方面、和歌山市を選択）	
11			
12			
1			
2	18	ワーカーズ新年会（マルキ精肉店）	
3	9	防災訓練	



## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【外部サービス利用型共同生活援助】	
定員	令和4年4月 30人	令和5年3月 30人
実利用者数	令和4年4月 28人	令和5年3月 28人
1日平均利用者数	令和4年4月 26.5人	令和5年3月 25.3人
職員常勤換算配置数	令和4年4月 7.5人	令和5年3月 7.5人
年間稼働日数	総稼働日数 365日	休日開所日数 日

### ② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	26.5	26.3	26.7	26.5	25.8	26.0	26.7	25.1	24.4	24.4	25.4	25.3
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

### ③ 利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	8	3	2	5	3	21
女	0	3	0	2	0	0	5
計	0	11	3	4	5	3	26

### ④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	9名
知的障害	17名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

## 【就労継続支援 B 型】

# 令和 4 年度 古道ヶ丘事業報告

## 1. 運営状況

### 保養所事業

・田辺市から委託されている指定管理（宿泊管理）事業は、昨年度に引き続きコロナの影響を受け収入も激減し、建物の老朽化、職員体制の薄さ、障害者施設の利用者の高齢化による施設維持管理（バンガロー清掃、草刈りなど）に携わることができない状況もあり、更新最終年度で保養所事業所を廃止するべく市と調整してきたが、調整がうまくいかず引き続き 3 年更新する結果となった。

### 福祉事業

・上記でも記した通り、利用者の高齢化が顕著となり、野外作業や宿泊管理事業にかかわれる利用者も減少し、作業自体の見直しが必要となってきた。施設自体も利用者人数に対して規模的にも大きく、維持費がかかるものとなっており、もう少しこじんまりとした施設が必要である。職員数も管理者、サビ管をいれないと 4 名なので職員体制的にも利用者支援が難しい場面も出てきている。

## 2. 事業報告

### ① 就労支援活動

#### (1) 田辺市委託事業

##### i バンガロー清掃（宿泊、前後のセット及び清掃を行った）

利用客の数が少なく清掃の数も少なかった。

##### ii 施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）

##### iii ブルーベリー収穫（栽培、収穫）

現在は収穫していない。

#### (2) 授産事業

##### i 昨年度に引き続き施設内周辺以外の草刈を行った。

昨年はなかった県からの草刈り作業を行った。

##### ii 内職作業

作業を精査した

・かげろう内職（福菱の箱折り）の注文がほぼ 0 となり内職作業をしても注文が来なければ収入がないので、作業した箱が山積みになり倉庫代わりになっていたので作業を取りやめた。

・ダイソーの内職は定期的にあつたのでこれを中心に作業を行った。

## ② 生活支援活動

### (1)

- i 年 1 回の健康診断を実施した。
- ii 防災計画に基づき年 2 回の防災訓練を実施した。
- iii 年度後半では少しずつではあるがレクリエーションを企画し開催した。

## ③ 個別処遇関係

### (1)

- i 個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。
- ii 高齢化にともない足の不自由な利用者が増えてきている。以前と同じメニューの作業にも参加しにくくなってきている。
- iii SST（社会生活技能訓練）を取り入れ、社会生活の質向上を目指した。

## 3. 地域交流・地域貢献活動

### (2)

- i 中辺路小学校 4 年生のみなさんが来所し、コロナ対策をとりながら施設見学、歌・楽器の演奏を聞かせてくれた。
- ii 毎年ボランティアで施設作業に参加してくれている中辺路中学校の生徒の皆さんは昨年に引き続きコロナの影響のため参加なしでした。
- iii 年度前半は町民運動会やバザーなども軒並み中止となり参加することができなかった。年度後半はふれあい文化祭など開催された催しに参加することができた。

## 4. その他の活動

### (1)

- i コロナ対策マニュアルを活用し利用者・職員の安全確保に努めた。

## 5. 行事報告

年月	行事等	備考
4 月	花見	
5 月		
6 月	防災訓練	
7 月		
8 月		
9 月		
10 月	BBQ おつかれさま会	
11 月		
12 月	クリスマス会、和歌山イオンレク	

1月		
2月	ふれあい文化祭	
3月	防災訓練	

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和4年4月 30人	令和5年3月 30人
実利用者数	令和4年4月 21人	令和5年3月 21人
1日平均利用者数	令和4年4月 19人	令和5年3月 19人
職員常勤換算配置数	令和4年4月 5人	令和5年3月 5人
年間稼働日数	総稼働日数 256日	休日開所日数 16日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	保養所委託事業関係	330,433
	喫茶	629,608
	内職、古紙・アルミ缶など	814,747
	その他	234,720
		計 2,009,508 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 10,000 円	実績 月額 7,806 円

### ② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	19.2	19.7	19.2	19.0	18.2	18.3	18.0	18.3	17.1	17.7	18.0	19.0
開所日数	21	21	22	21	21	21	21	22	21	18	20	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	2	1	2	3	1	9
女	0	0	3	1	5	3	12
計	0	2	4	3	8	4	21

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	9名
知的障害	9名
身体障害	2名
手帳未取得	1名
その他	名

## 【就労継続支援 B 型】

# 令和 4 年度 本宮くまのこ作業所事業報告

## 1. 運営状況

前年度より職員体制が 1 名減の中、古道ヶ丘、こどうの家から職員が応援に入りフォローをした。利用者の平均通所率が下がっている状況で利用者の退所が 1 名あった。コロナ禍の影響で利用者個人個人のストレスの強まりが通所率の減少につながっている。

## 2. 事業報告

### ① 就労支援活動

#### (1) 野外清掃活動

コロナ前の清掃作業を行うことができた。

#### (2) 古紙回収・アルミ缶回収

週 1 回本宮の回収拠点 8 ヶ所のアルミ缶回収を実施。

熊野鼓動・芝サッシ店・本宮社協より古紙とアルミ缶の提供。

地域住民による持ち込み。

#### (3) 自販機事業

本宮行政局と本宮社協の 2 ヶ所の自動販売機での販売・補充・点検。

#### (4) 内職作業

##### i 箱折り作業

古道ヶ丘とともに行っていたかげろう（福菱）の内職は中止となった。

##### ii 海外向け商品の梱包作業

海外向け商品のバーコード貼付け作業や梱包作業を請け負っている。

作業の量や商品の種類が徐々に増えてきている。

##### iii 備長炭のパッキング作業

本宮町内の製炭業者より浄水用備長炭や燃料用備長炭のパッキング作業を請け負っている。

#### iv マコモ茶の裁断作業

本宮町内のマコモ栽培農家よりマコモ茶の裁断作業を請け負っている。

##### (5) 自主製品（アクリルたわし）

本宮町内の3ヶ所の店舗で販売。コロナの影響で観光客が減少しており販売数も減少。

#### ② 生活支援活動

- (1) 年1回の健康診断の実施。
- (2) 本宮町内での週3回の買い物支援の実施。新宮市内へ月1回の買い物支援の実施。
- (3) 防災計画に基づき年2回の防災訓練実施。
- (4) 年度後半ではレクリエーション企画、開催が行えるようになってきた。
- (5) 糖尿病や肥満の方に対応した給食を提供した。

#### ③ 個別処遇関係

- (1) 個別アセスメントを行い、個別支援計画に基づき支援を実施。
- (2) 体重コントロールが困難な利用者向けに作業前のウォーキングを実施。
- (3) 精神的に調子を崩した利用者に対しての定期的な家庭訪問を実施。
- (4) 諸事情により利用時間がずれる利用者に対しての送迎時間や利用時間の調整。
- (5) 月1回休日開所を実施して、調理実習等の生活訓練や社会性向上を目的とした取り組みを行った。古道ヶ丘と連携した。
- (6) 年に1回、地域在住者の家庭訪問を実施して、家族との連携を図った。

### 3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 本宮女性会との本宮大社近くの花壇の花植え活動（年2回）
- (2) 本宮ゆる体操部会、週一回開催している。

### 4. その他の活動

- (1) 本宮地域に事業所活動を周知するため、月1回「くまのこだより」を発行。
- (2) 本宮地区のケア会議の参加。（本宮町内の他サービス事業所との意見交換等）

### 5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	8	花見	
5	4	BBQ レク	
6	21	花植え	本宮女性会と合同で実施
8	26	古道合同 BBQ レク	作業所敷地内で実施

10	20	ソフトボール紅白戦	古道ヶ丘と実施
12	21	クリスマス会	作業所内で実施
1	11	初詣	
2	18	ふれあい文化祭	
3	30	お別れ会	古道ヶ丘と実施

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和4年4月 10人	令和5年3月 10人
実利用者数	令和4年4月 12人	令和5年3月 11人
1日平均利用者数	令和4年4月 7.6人	令和5年3月 7.5人
職員常勤換算配置数	令和4年4月 2.87人	令和5年3月 2.87人
年間稼働日数	総稼働日数 240日	休日開所日数 16日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	内職、自販機その他	1,474,912
		計 1,474,912円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 7,200円	実績 月額 6,973円

### ② 利用実績 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	7.4	7.1	7.5	7.1	7.2	7.9	7.2	7.4	7.8	7.5	8.2	8.0
開所日数	21	21	22	21	21	21	21	22	21	18	20	23



③ 利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	2	0	1	0	2	5
女	0	0	2	1	1	2	6
計	0	2	2	2	1	4	11

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	5名
知的障害	6名
身体障害	0名
手帳未取得	0名
その他	0名

## 【介護サービス包括型共同生活援助】

# 令和4年度 こどうの家・第2こどうの家事業報告

### 1. 運営状況

女性ホームの空き居室2名が埋まり、女性ホーム満床。男性居室1名の空きも、現在体験利用者あり。コロナ対策も落ち着いてくる中でホーム空き状況も改善されてきている。

### 2. 事業報告

#### ① 生活支援活動

##### (1)

- i 給食サービスの実施 夕食月火水木金曜日  
株)南陽食品との契約を継続し、食事提供を行った。
- ii 防災計画に基づき年2回の防災訓練を実施した。
- iii 掃除や洗濯など日常生活力を身に付けるための家事援助や調理実習の実施
- iv 病院への同行受診の実施を行った。
- v 紀南こころの医療センターやその他の病院の受診の際、山間部であるため公共交通機関の不便さを鑑み、同行し場合によっては診察の場面に付き添った。
- vi 自治会の支援として毎月定期的実施し、ホームでの生活について利用者同士で話し合うための支援を行った。

#### ② 個別処遇関係

##### (1)

- i 日々の生活費の使い方などの助言や管理支援を行った。
- ii 服薬についての助言や管理の支援を行った。
- iii 個別支援計画の作成に努め利用者個々にあった支援と生活の質の向上を目指した。
- iv SST(社会生活技能訓練)を取り入れ、社会生活技能のスキルアップを目指した。
- v 家族との連携を深め、協力関係の構築に努めた。

### 3. 地域交流・地域貢献活動

#### (1)

- i 町内会へ加入している。

### 4. その他の活動

#### (1)

- i コロナ対策マニュアルを活用し利用者・職員安全確保に努めた。

- ii にじのわ、サポートセンターゆう、ぼらんち等各相談機関と連携を図った。
- iii 利用を希望する方の体験入所の実施を行った。

## 5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月	防災訓練・外食（ガスト）・ドライブ（奇絶峡）	
12月		
1月	調理実習	
2月	茶話会	
3月	防災訓練、防災学習・茶話会	

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

ホーム名	こどうの家		第2こどうの家	
	4年4月	5年3月	4年4月	5年3月
定員	5人	5人	6人	6人
実利用者数	4人	4人	4人	6人
職員常勤換算配置数	3.79人	3.79人	3.79人	3.79人
年度中の入退所	入 所	0人	入 所	2人
	退 所	0人	退 所	0人
利用市町村内訳	田辺市	4人	田辺市	2人
	白浜町	1人	白浜町	1人
	新宮市	人	新宮市	2人
	その他	人	その他	1人

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	7.0	7.7	7.8	7.8	7.6	7.8	7.9	7.9	7.9	7.8	8.0	7.9
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

③ 利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	1	0	0	3	0	4
女	0	0	1	2	2	1	6
計	0	1	1	2	5	1	10

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	6名
知的障害	4名
身体障害	名
手帳未取得	名
その他	名

## 【就労継続支援 B 型】

# 令和 4 年度 龍の里作業所事業報告

## 1. 運営状況

近年利用者の高齢化と地元の過疎化に伴い利用者の減少が続き、今後もその傾向は続く  
とみられ、地域の在宅障害者へのアプローチが重要な課題となった。

## 2. 事業報告

令和 4 年度は作業に関しては途切れることなく、授産事業においては利用者が減った分  
を加味して大きな減収とはならなかった。コロナ禍によりほとんどの地域のイベントに参  
加することができなかったが、感染状況の合間を見て独自のレクリエーション企画を実施  
した。なかでもボランティア事業のアウトドア体験は利用者の関心が高く、数年ぶりの他  
事業所との交流が大きな刺激となった。

### ① 就労支援活動

#### (1) 内職作業

i 亀井商店…引き取りや納品もあり、仕事が切れることがない。ボンド付け作業など  
他では難しい作業を依頼される割には単価が低い。

ii 龍神マッシュ…しいたけ袋のシール貼りは単純で効率的。

(2) 受託作業…龍神マッシュの実習、花いっぱい運動の書類作成、苗運搬などの作業を  
行った。

(3) 自主製品…今年も「よもぎの葉」は生産量が不足し、多くの注文を断らざるを得な  
かった。龍神杉のコースターは田辺市より「花いっぱい全国大会」の記念品として  
大口(200セット)の注文を受けた。

焼き菓子では地元の道の駅や売店ピュアを中心に内職作業の合間を見計らって細々と  
製造していたが、顧客がつき需要に対して供給が追い付かないこともあった。

(4) 農作業…作物は自然薯一本に絞り、生産・販売を行った。

(5) 販売…そうめん、うどんはほぼ例年通りの販売数を維持したが、チョコレート販売  
は積極的な活動ができず、やや減収となった。

(6) リサイクル…地域からの提供も増え、増収となった。回収事業所のアルミ缶協会よ  
り優良回収拠点として表彰を受けた。

### ② 生活支援活動

(1) 健康目標においては 40 歳以上の利用者に詳細な検査項目がある田辺市の特定健診と  
がん検診、39 歳以下の利用者に白浜はまゆう病院での検診を実施した。特定保健指

導の対象者には保健師や栄養士の指導を受けられるよう支援した。

- (2) 日常生活課題や金銭管理などの相談は社会福祉協議会と連携し、権利擁護や訪問支援など制度を活用し、支援を行った。
- (3) 感染症予防のため施設内の消毒、ソーシャルディスタンスの確保を行い、黙食を徹底した。

### ③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援計画とサービス利用計画に基づき、主治医や家族、関係機関と連携しながら個々の課題に基づいた利用者への支援を実施した。
- (2) 就労希望者のうち1名が就労。(龍神マッシュ組合)

## 3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 授産科目の「便利屋」における高齢者宅の請負作業や「花いっぱい運動」による地域住民団体との協働事業による交流活動を実施した。

## 4. その他の活動

- (1) 避難訓練(年二回)を実施。
- (2) 健康診断の実施。(田辺市特定健康診査、白浜はまゆう病院)

## 5. 行事報告

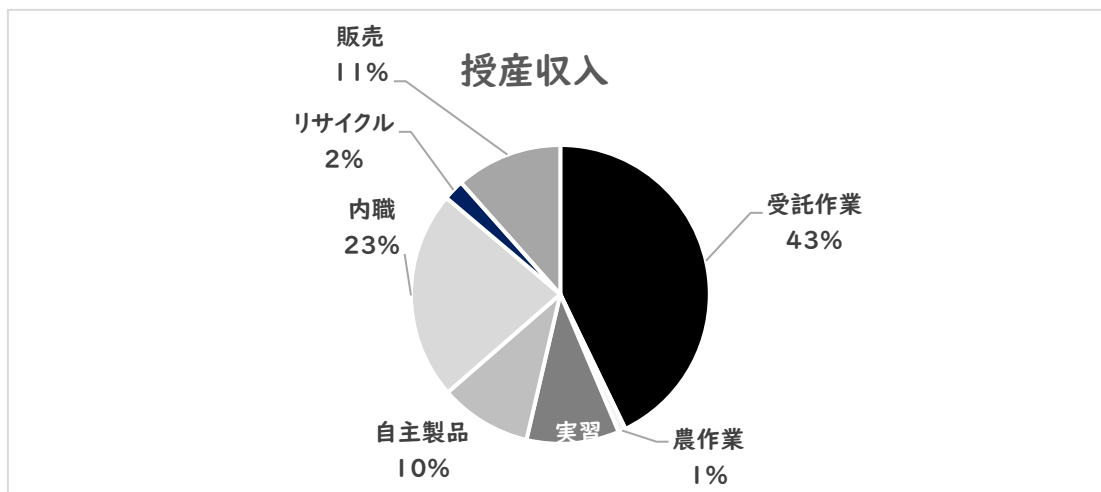
月	日	行事等	備考
5	27	買い物レク(パビリオンシティ)	
6	15	健康診断(39歳以上)	
	24	買い物レク(イオン和歌山)	
8	11	ドラゴンミュージアム見学、パフェ作り	
10	28	日帰りバス旅行(和歌山市方面)	
11	5	アウトドア交流会(古道ヶ丘)	
12	16	健康診断(38歳以下)	
	28	忘年会	
2	17	買い物レク(パビリオンシティ)	
3	17	買い物レク(ガーデンパーク和歌山)	
	28	花見(季楽里龍神)	

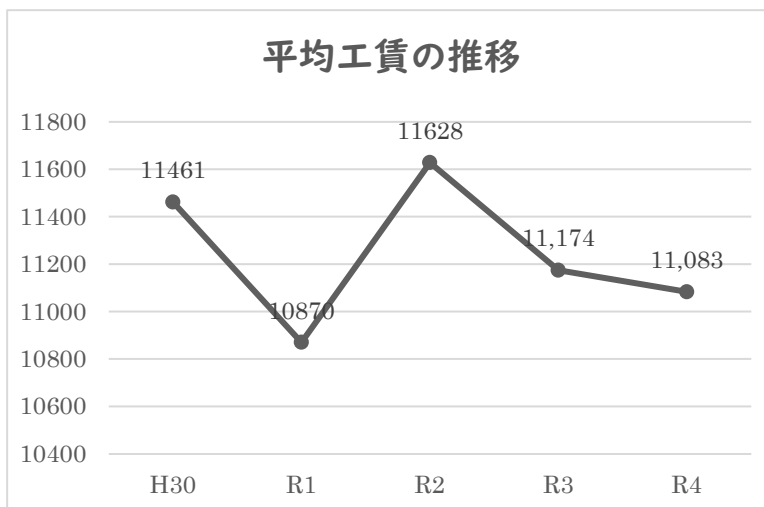
## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【就労支援継続B型】	
定員	令和4年4月 20人	令和5年3月 20人
利用者数	令和4年4月 17人	令和5年3月 16人
1日平均利用者数	令和4年4月 15.1人	令和5年3月 13.7人
職員常勤換算配置数	令和4年4月 4.2人	令和5年3月 5.2人
年間稼働日数	総稼働日数 245日	休日開所日数 7日

授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	自主製品	328,240
内職作業	744,939	
受託作業	1,412,560	
農作業	26,600	
実習	330,700	
販売	381,165	
リサイクル	74,773	
	<b>合計</b>	<b>3,298,977</b>
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 12,030円	実績 月額 11,083円



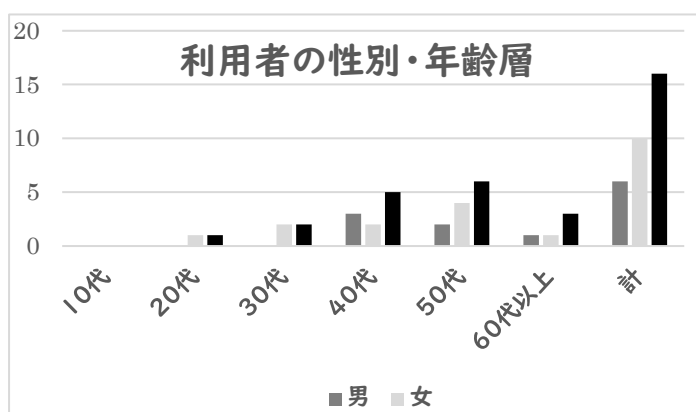


② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	14.7	14.7	14.5	13.8	13.6	13.8	13.4	12.9	13.3	12.2	13.4	13.6
開所日数	21	19	22	20	20	21	20	21	20	18	20	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	0	0	3	2	1	6
女	0	1	2	2	4	1	10
計	0	1	2	5	6	2	16





④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	8名
知的障害	10名(3)
身体障害	0名
手帳未取得	1名
その他	0名

## 【地域活動支援センターⅢ型】

# 令和4年度 かしのき事業報告

## 1. 運営状況

上富田町内在住で障害を持たれ福祉サービスを受けていない方や、日中サービスの利用に至らない方々を主として、自宅以外の場所の提供を目標に活動を行ってきた。

平日はサロン利用、レクリエーションを中心に活動し、内容はその日来所された方々との話し合いで決めていった。その活動はフェイスブック等で広報を継続している。

## 2. 事業報告

### ① 就労支援活動

内職関係（レトルトカレー箱入れ）

施設外（梅ひろい）

自主製品（プランターでの野菜作り）

### ② 生活支援活動

#### (1) サロン・レクリエーション活動

憩いを主としての活動のため、来所者には強要せず「やりたいこと」をやってもらうこととしている。サロンでDVD鑑賞・読書、調理実習、ボードゲーム、TVゲーム、麻雀などを行い、外出時は釣り・買い物・観光地周り・外食・スポーツを行ってきた。

#### (2) 給食活動

日々のメニューについてはSNSにて更新を継続中。

### ③ 個別処遇関係

希望者に対し、可能な支援として以下を行った。

#### (1) 受診同行（送迎含む）

#### (2) 金銭管理

## 3. 地域交流・地域貢献活動

### (1) 特になし

## 4. その他の活動

### (1) 特になし

## 5. 行事報告

来所者希望にて、ほぼ毎日レクリエーション活動を行ってきた。

月	日	行事等	備考
4		釣り、園芸、買い物、他	
5		釣り、園芸、買い物、他	
6		釣り、園芸、買い物、他	
7		釣り、バッティングセンター、買い物、他	
8		BBQ、釣り、買い物、他	
9		始球式、栗拾い、買い物、他	
10		串本へ小旅行（外食）釣り、バッティングセンター、買い物、他	
11		アウトドア交流会参加、英検勉強会、買い物、ドライブ、他	
12		買い物、クリスマス会、足湯、他	
1		室内レク	
2		室内レク、買い物、他	
3		ボードゲーム交流会、他	

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【地域活動支援センターⅢ型】	
	令和4年4月	令和5年3月
定員	10人	10人
実利用者数	6人	9人
1日平均利用者数	4.0人	5.0人
職員常勤換算配置数	2人	2人
年間稼働日数	総稼働日数 241日	休日開所日数 1日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	請負作業	12,300円
	内職作業	8,000円
		計 20,300円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 円	実績 月額 141円

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	3.9	3.7	3.8	3.5	4.3	5.0	5.0
開所日数	20	19	22	20	19	20	20	21	21	18	18	23

③ 利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	1	1	2	2	1	7
女	0	0	1	0	0	1	2
計	0	3	3	2	2	2	9

③ 障害種別（令和5年3月利用者）

障害名	利用者数
精神障害	6名
知的障害	1名
身体障害	1名
手帳未取得	0名
その他	1名

## 【就労継続支援 B 型】

# 令和 4 年度 か～む事業報告

### 1. 運営状況

前年度の 1 日あたりの平均利用者数 13.7 人に対し、令和 4 年度は、12.5 人と前年度より 1.2 人減であった。新規利用者の受入れが 4 人に対して、退所者が 2 人であり、登録者数は 2 人増となり、令和 5 年 3 月末時点で登録者数は 22 名となった。退所理由は、身体的な理由から生活介護に移行した方が 1 名、身体的な理由と通所意欲がない方が 1 名であった。

12 月末にコロナ感染者が合計で 4 名でており、1 日休所することになった。1 月にも職員がコロナ感染したが、広がることはなかった。

利用者アンケートからの「もう少し働きたい」、「お金を稼ぎたい」という要望を踏まえ、今年度から、作業時間を 2 時間 40 分から 3 時間に変更した。当初は、スケジュールの変更で戸惑いは見られたが、変更に対しての不満などは見られなかった。また、日帰り旅行に行きたいとの要望もあり、参加者には毎月 500 円を集めて、3 月に日帰り旅行を実施した。  
(和歌山イオン、ドンキホーテ)

### 2. 事業報告

#### ① 就労支援活動

##### (1) 内職作業

- i 亀井商店（日用品の包装など）：新型コロナの影響もなく主力として関わることができた。
- ii 福梅本舗（梅の箱詰め、シール貼り）：定期的に仕事が貰えるようになり、単価も良く、障害が重い利用者も関わっている。
- iii オリムピック（保証書入れ、袋のシーラー止め、シール貼り）：毎週月曜日に納品し、仕事をもらっている。

##### (2) 受託作業

- i 草引き：週に 1 回の午前中の作業で、参加者を募って行っている。作業所内の作業と差別化を図るため、手当をつけている。
- ii ペットボトル作業（キャップ外し、洗い、ラベルはがし）：週に 1 回午後からの作業で参加者を募って行っている。所内の作業と差別化を図るため、手当をつけている。
- iii 給食運搬：陽だまり、か～むと毎日運搬作業を行う。
- iv 便利屋作業：荷物の搬入や清掃作業を行う。参加してくれた利用者には、手当をつけている。
- v アルミ缶回収：白浜町内を中心に協力してもらっているところに週 1 回収を行い、整理、分別を行っている。

vi 洗車：月に 1 回、参加者を募って職員の車を洗車。それ以外にも車両点検終了後、事業所の送迎車の洗車も行っている。

(3) 販売活動

i ジュース販売：事業所内で自販機より値段を安く設定して販売。毎日の売上計算や補充は利用者が担当。利用者に飽きがないよう、新しい商品の仕入れを行った。

(4) バザー活動

新型コロナ感染拡大のため、すべてのイベントが中止になり、昨年同様参加ができていない。

(5) その他

物品販売（そうめん、ちゃんぽん）をボーナスの資金作りとして取り組み、昨年度ぐらいの収入が確保できた。

② 生活支援活動

(1) 利用者の日常生活能力の維持や向上を目的として、館内清掃や調理実習、昼食の配膳、食器洗い等の活動を行った。

(2) 年 1 回の健康診断を実施し、必要に応じて関係機関や家族との連携に努め、支援を行った。また、朝礼後の散歩やレクリエーションでスポレクの実施など健康増進の取り組みを行った。

(3) 金銭の相談や管理、申請書類の相談や同行、身だしなみ等について助言を行った。

(4) 生活に必要な物品を購入し、それぞれの生活が充実するよう、コロナ感染予防対策を遵守しながら、買い物支援を継続して実施した。

(5) 日々の体温チェックや手洗い、うがい、消毒などの新型コロナウイルス等の感染対策を実施した。また、インフルエンザ、コロナワクチン予防接種の同行支援を行った。

③ 個別処遇関係

(1) 利用者の意向や課題を確認しながら支援計画書を作成し、定期的な見直しを行った。

(2) Dr との意思疎通が難しい方や重篤な疾患がある方の受診同行を定期的に行い、家族、関係機関と連携して支援を行った。また、精神が安定されない方への緊急的な受診の同行も行い、家族、関係機関との連携に努めた。

(3) 通所が滞った利用者に対し、関係機関と連携し電話連絡や訪問支援を行った。

(4) 就労意欲がある利用者には、就労訓練実習等を紀南障害者就業・生活支援センターと連携し取り組んだ。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 町内会主催の地域イベントが新型コロナ感染拡大により中止となり、催しに参加で

きなかった。

(2) アルミ缶回収を通して、地域の方や企業に引き続き協力していただいた。

#### 4. その他の活動

- (1) 介護保険サービスを併用する利用者の関係機関と、必要に応じて連携を行った。
- (2) 年2回(9月、3月)の防災訓練を実施し、利用者とは非常持ち出し袋の確認を行った。
- (3) 休日開所を24日行った。作業だけでなく、ボランティア事業(シーカヤック体験、アウトドア体験)などの余暇支援にも取り組んだ。
- (4) コロナ感染の状況もあり、外部研修には積極的に参加できなかった。

#### 5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	7	亀井商店見学	
	14	買い物支援	
	21	DVD鑑賞会	
	28	スポレク	
5	12	買い物支援	
	19	DVD鑑賞会	
	26	グラウンドゴルフ	
6	2	調理実習	
	9	室内ゲーム	
	16	買い物支援	
	23	ドライブレク	
7	30	DVD鑑賞会	
	7	せんべい工場	
	14	買い物支援	
8	28	かき氷	
	4	室内ゲーム(クイズ)	
	18	DVD鑑賞会	
9	25	買い物支援	
	1	ぶどう狩り	
	8	防災訓練	
	15	買い物支援	
	22	DVD鑑賞会	
10	29	スポレク	
	6	BBQ	
	13	買い物支援	
	20	グラウンドゴルフ	
11	27	紅葉ドライブ	
	10	外食&買い物	
	17	室内レク	
12	24	DVD鑑賞	
	8	飾りつけ工作	
	15	買い物支援	
	22	クリスマス会&忘年会	
1	28	買い物支援	
	22	買い物支援	
	19	DVD鑑賞	

	26	お汁粉	
2	3	観梅（みなべ）	
	10	観梅（田辺）	
	11	買い物支援	
3	2	日帰り旅行	
	7	利用者健康診断	
	10	利用者健康診断	
	15	防災訓練	
	16	買い物支援	
	23	DVD鑑賞会	
	30	忘年会	

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 4 年 4 月 20 人	令和 5 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 4 年 4 月 18 人	令和 5 年 3 月 22 人
1 日平均利用者数	令和 4 年 4 月 11.8 人	令和 5 年 3 月 15.2 人
職員常勤換算配置数	令和 4 年 4 月 4.8 人	令和 5 年 3 月 4.8 人
年間稼働日数	総稼働日数 263 日	休日開所日数 24 日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	内職作業	972,311
	受託作業	613,015
	販売活動（自販機、ジュース販売）	410,178
	その他（和作連物品、便利屋作業他）	147,230
		計 2,142,734 円
工賃実績 （一人当たり）	当初目標 月額 7,000 円	実績 月額 8,082 円



② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	11.8	12.7	13.3	12.5	12	12.5	11.2	12.1	12.9	12.2	12.3	15.2
開所日数	22	21	24	22	21	22	22	22	21	21	21	24

③ 利用者の性別・年齢層（令和5年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男			1	2	4	2	9
女	1		2	5	3	2	13
計	1		3	7	7	4	22

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	11名
知的障害	6名
身体障害	5名
手帳未取得	名
その他	名

## 【就労継続支援 B 型・就労定着支援】

# 令和 4 年度 すまいる事業報告

## 1. 運営状況

令和 4 年度は、就労継続支援 B 型と就労定着支援での縮小した形態での運営だった。職員体制も 2 名減少したため、事業縮小はしたが事業内容が縮小する事はほぼなかった。また、授産活動の多忙もあり職員、利用者共に通年多忙な日々を過ごしながらの運営であった。令和 4 年 9 月には、新型コロナウイルスの第 8 波の影響で職員、利用者がコロナ感染してしまい、2 日間閉所する等迷惑をかける経過もあった。そして、今年度は、2 年間授産活動の多忙が続いている状況とぼのぼの工房の方向性の見直しも必要な年度であった。そして、令和 5 年 3 月に地域密着型で運営してきたぼのぼの工房（出張所）を閉店する事になった。

## 2. 事業報告他

### ① 就労支援活動

#### (1) 就労継続支援 B 型

i 利用者状況 - 今年度は、新規利用者の受け入れはなかった。安定した通所ができている利用者は 8 割程度であった。休む理由の多くはコロナ感染で濃厚接触者となり通所自粛でお休みになるケースであった。また、今年度の退所者は、4 名であった。1 名（女性）は、服薬治療が安定せず病状が悪くなり退所となった。通所状況を経過観察しながらの受診同行、関係機関、家族調整を行うが、病状の受け入れが難しく、支援を拒み退所。1 名（女性）は、病状が安定した上で在宅生活を希望し退所。1 名（女性）は、家族関係の問題で通所困難になり在宅生活を希望し退所。1 名（女性）は、施設入所予定者で通所が遠方になるため、かへむに移行することになった。1 名（女性）の利用者は令和 4 年 4 月から入院治療を行っているが、服薬を拒む状況が続いているため未だ医院保護入院で治療している。

#### ii 就労訓練内容

##### 「施設内作業」

令和 3 年度より施設内作業が多忙となり、半年間 16:30 までの作業時間延長と土曜日開所（自主参加）で納品のノルマ達成に繋げることができた。毎日残業が続きしんどくなる状況もあったが、休んだりする利用者もなくほぼ全員参加で乗りきる事ができた。そして、今年度は目標工賃が 29,342 円の平均工賃にまで繋げる事ができた。

##### 「ぼのぼの工房（出張所）」

ランチをテイクアウト方式に変更しての接客業での活動を行った。日替わり弁当が

好評で日々多忙な日が増え、利用者の仕事（弁当の下準備）も増えて個々にできる内容に取り組んでもらった。女性利用者 5 名のうち 2 名は調理も出来るようになったが 2 名から増やすことが難しく、また業務量が多くなるとスピード、正確性が問われる仕事内容になり作業時間内に終われない日もあった。そして、職員も女性職員に限定されてしまう事もあり令和 5 年 3 月をもって閉所する事になった。

#### 「施設外作業」

町内の事業所で清掃活動（3 事業所）、梅加工業（1 事業所）での実習に取り組んでいる。ローテーションで利用者が自力通所（自動車・バイク、自転車）で実習先に行き、従業員の中での就労体験の場を提供し、職場マナー、社会性の習得に繋げる支援を行った。

iii 就労状況 - 2 名の利用者が就労予定でアンカーと連携し就労実習に取り組んだ。

1 名は就労前実習にも参加したが、「自分にはまだ早い。」とのことで就労に繋がらなかった。1 名は再就職希望の利用者で職員が声掛けし、自分で求職活動（窓口相談、履歴書準備）を行い、面接を受け不採用の結果であった。その後も求職活動を行っているが自分から積極的に就職活動しないため、就労に繋がらなかった。

#### (2) 就労定着支援

i 利用者状況 - 事業開始より 2 年経過し 5 名の利用者の定着支援を継続している。

利用者の 2 名（男性）が体調不良で長期休養中。引き続きアンカーと連携し、体調面の経過を見守り仕事復帰に向けての調整中である。

ii 就労定着内容 - 安定している利用者 3 名は、月 1 回の面談と事業所訪問を行った。

事業所訪問は、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながらの訪問になってしまい訪問できない月もあった。長期休養している利用者は、アンカー、家族、主治医と情報交換、共有、支援調整し定着支援を行った。

#### (3) 障害者相談支援事業

i 相談者状況 - にじのわが委託事業の窓口となり 2 年経過。必要な際は、ケース会議に参加し相談者の内容を申し送りする形で連携した。今年度は、5 人（精神 5）の方の申し送りを行った。

ii 相談事業内容 - 断薬し病状が悪くなり入院治療後、安定した在宅生活を送れるように相談窓口として繋げるケースが多かった。

#### (4) 計画相談事業

i 相談状況 - 今年も 45 人（精神 24・知的 20・身体 1）の計画相談を行った。

相談終了者は、5 名で福祉サービス利用を終了し在宅生活希望の相談者が 4 名、1 名は介護保険に移行する相談者であった。在宅生活者の支援は、にじのわに申し送りしながら、必要な際は対応する場合もある。もう少し相談者を整理し新規相談者の受け入れを検討したい。

ii 相談事業内容 - 体調不良により日常生活での不安が強くなり、通所困難になるケー

スが多かった。病状悪化の前兆時より受診同行、投薬調整等も行うが、相談者の病気の受容が難しく、長期治療が必要な相談者が増えてきている。

## ② 生活支援活動

- (1) 生活習慣—通所時の確認（挨拶・身だしなみ（歯磨き・洗髪・服装・持ち物等））を行った。必要なケースは家族にも協力してもらおう事で、習慣としてっできるようなった利用者もいた。
- (2) 健康管理 - 今年度も通所者全員に健康診断を年 1 回受けて貰い、病気の早期発見、早期治療に繋げる支援を行った。令和 4 年 9 月、新型コロナウイルス第 8 波の影響で職員 3 名、利用者 9 名、第 9 波では、職員 1 名、利用者 2 名が感染し合計 15 名感染した。
- (3) 金銭管理—必要な利用者は、関係機関と連携し、金銭管理（社協の福祉サービス利用援助事業）を行った。ATM の機械利用がない利用者は、家族の同意を得て機械の捜査手順を教える支援を行った。
- (4) 受診同行 - 利用者の体調面、精神面の観察を行い、気になる利用者は、声掛け支援（服薬の声掛け・確認）を行った。必要な際は、本人、家族と話し合い、受診同行し、主治医と情報交換、共有し支援内容の調整に繋げ、病状の安定と回復に繋げる支援を行った。

## ③ 個別処遇関係

利用者の意向を尊重し、家族の意見も交えできるだけ目標が達成できる支援計画の作成を心がけた。自分の目標を立てづらい利用者は、家族からの聞き取りで情報共有し、本人ペースで自立していくために取り組む支援内容を一緒に考え作成し実践した。

## 3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 商工会活動への参加は、新型コロナ禍の自粛もあり今年度も参加しなかった。
- (2) 地域バザーの参加の呼びかけも下半期にあったが、授産活動多忙のため参加できなかった。
- (3) 古着回収は地域住民にも協力してもらい交流活動にも繋がっている。貼り紙で防止策をとっているが、収益事業にならない月もある。休みの日に持ち込まれる事が多く、回収容器がプラスチックや、おもちゃ回収可能と思い休みの日に置いていくケースで、最終ゴミ処理しないといけない状況が続いている。

## 4. その他の活動

- (1) 自治会活動の取り組み（余暇活動等）、上半期は授産活動の繁忙期と新型コロナウイルスの動向が懸念されたため、余暇活動を最小限にし下半期のお楽しみで取り組んだ。すまいる旅行も 3 年間旅行していなかったため、始めて 1 泊 2 日の旅行に参加する利用者はとても喜んでいた。
- (2) 年 1 回の健康診断を行い早期発見、早期受診に繋げた。

(3) 年 2 回の防災訓練を行った。1 回目の際は、消火器訓練を職員で行い、2 回目は、消防署職員に来てもらい消火器訓練指導を実施した。

## 5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4			新型コロナウイルス感染症拡散予防の 為中止
5	1 2	・春の日帰り旅行 (水門まつり・串本海中公園)	新型コロナウイルス感染症拡散予防の 為中止
6			梅収穫作業繁忙期の為余暇活動自粛
7			梅収穫作業繁忙期の為余暇活動自粛
8	2 6	・避難訓練 (1 回目)	新型コロナウイルス感染症拡散予防の 為中止
9			新型コロナウイルス感染症拡散予防の 為中止
1 0		・ボランティア事業のシーカヤック 体験 (アースメイト)	
1 1	1 1 1 4	・秋の日帰り旅行 (和歌山北・紀南) (泉南イオン班・那智の滝班)	
1 2	2 0 2 1	・女性健康診断 (はまゆう病院) ・男性健康診断 (はまゆう病院)	施設内作業繁忙期の為余暇活動自粛
1	1 6	・雑煮 (ぼのぼの工房)	
2	1 6 2 5	・弁当注文 (ぼのぼの弁当) ・観梅 (みなべ梅林)	
3	7 1 0 1 1 2 9 3 1	・ボランティア事業参加 (ボードゲーム) (ビッグ U) ・すまいる 1 泊旅行 (那智駅散策・太地くじら博物館・ 串本大江戸温泉物語) ・避難訓練 (2 回目) ・お別れ会 花見・球技大会 (清川球場) 弁当注文 (丸政)	

## 6. 数値実績

### ① 施設概要

事業種別	【就労定着支援】		【就労継続支援 B 型】	
	令和 4 年 4 月	令和 5 年 3 月	令和 4 年 4 月	令和 5 年 3 月
定員	5 人	5 人	25 人	25 人
実利用者数	5 人	5 人	25 人	23.6 人
1 日平均利用者数			25 人	24 人
職員常勤換算配置数	令和 4 年 4 月	令和 5 年 3 月	令和 4 年 4 月	令和 5 年 3 月

	0.4人	0.4人	6.8人	6.8人
年間稼働日数	総稼働日数 252日	休日開所日 16日	総稼働日数 252日	休日開所日 16日
授産科目及び授産収入			収入(円)	
			自主製品 (ぼのぼの)	2,284,760
			施設内	4,670,520
			施設外	3,064,826
			受託作業	786,071
			計	10,806,177円
工賃実績 (一人当たり)			当初目標 月額20,000円	実績 月額29,342円

② 利用実績(月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均 利用者数	25	24.5	24.2	23.2	23.2	21.8	22.3	24.2	23.1	23.1	24.4	24
開所日数	22	21	22	22	20	17	23	22	23	17	20	23

③ 利用者の性別・年齢層(令和5年3月末時点)

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	8	3	3	1	1	16
女	0	8	3	3	1	0	15
計	0	16	6	6	2	1	31

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	10名
知的障害	20名
身体障害	3名
手帳未取得	1名
その他	0名

## 【就労継続支援 B 型】

# 令和 4 年度 いなづみ作業所事業報告

## 1. 運営状況

草刈り等の外作業に従事できる利用者が減り、屋内での内職を求める声が増えてきているものの、こなせる作業の量は僅かなのでなかなか大量受注には至っていない。反面働ける利用者は外作業で工賃を得たいという希望もあり、事業所内でニーズが二極化している。

高齢利用者のデイサービスへの移行も進んでおり、登録者の減少、利用日の減少が目立っているが、生活支援が中心になり常に利用者の着替えやタオルを常備している状況で、職員の仕事量は増えている。

## 2. 事業報告

### ① 就労支援活動

内職作業の拡充を計画していたが、地元のかつお節業者からの連絡が途絶え、作業が無くなってしまった時期もあったが、白浜の業者からスポンジの袋入れ作業をもらって作業訓練を行った。

草刈り作業については受注量の調整が難しく、少しだけ減らすといった受注は困難なため、例年通りの受注量となった。

### (1) 受託作業

#### i. 草刈り・草引き

町からの委託を断ったので多少は余裕があったが、それ以外はほぼ例年通りの受託量だった。同じ作業量に対して作業時間は増えているので、実質的な時間単価は下がっている。

#### ii. 洗車作業

中心的に作業しているメンバーが老眼のため、汚れやワックスの拭き残しが良く見えていないらしく職員のチェックと仕上げが重要となってきた。

#### iii. お墓の清掃

新規の受注があり必要とされるサービスだと感じているが、メンバーの中には少し敬遠する人もいる。

#### iv. 洗濯作業

衣類のレンタル業者の参入で契約が 1 人となってしまった。デイケアに移行したメンバー 2 名の契約と合わせて 3 名分のみになっている。

#### v. すさみ社協での洗車

洗車ができる利用者が腰痛や意欲低下が理由で減っている

#### vi. ソーラー発電所の管理

草引き作業に留まらず、パソコンの修理や稼働チェック等、発電所のシステム運用上の維持管理の仕事が増えてきた。

## (2) 自主製品

### i. EM ボカシ

原材料高騰のため、初めての値上げを行った。売上の減少を懸念したが、それほど影響はないように感じる。

### ii. リサイクル石鹸

一部のコアなファンが買ってくれているが、年間 40 個程度の売り上げに留まっている。

### iii. 野菜作り

大きさや形を整える事がかなり困難で、店舗で販売するレベルにまでは達していないため、関係者に安価で買ってもらっているのが現状だが、作る楽しさを感じてもらえる作業でもある。

## (3) リサイクル作業

地面に広げたたくさんの空き缶の中からスチール缶を取り除く作業だが、足腰に大きな負担がかかるために参加できない利用者が多くなってきた。テーブルを使った作業ができないか模索している。

## (4) 内職作業

かつお節の地元企業からの連絡が途絶えたままなので、白浜の業者から袋詰めの仕事をもたらしているが安定した仕事量ではなく、途切れることが多かった。

## (5) バザー

すべてのバザーが中止になった。

## (6) その他

血糖コントロールの必要な利用者のためにゼロカロリーコーラの販売を始めたところ、かなり好評でコーヒーの量が減った。

## ② 生活支援活動

急に両親 2 人を亡くした利用者について、住まい探しから引っ越し、ヘルパーとの契約まで支援をした。

また、自宅での支援が必要な利用者については、ヘルパー、ケアマネと連絡を密にし、必要な時は自宅を訪ねる支援も行った。



(1) 健康診断

町の健康診断に同行し、診察がスムーズに行えるよう支援をした。  
またその結果をもとに食事内容のアドバイスや病院の受診を勧めた。

(2) 買物支援

長距離の歩行が困難な利用者や決済時に援助が必要な利用者を対象に、毎週金曜日に地元のスーパーに同行し買物を楽しんでもらった。  
その際、健康診断等で食事制限を勧められた利用者については購入品についてアドバイスをし、糖分や塩分の摂りすぎに注意した。

(3) 受診同行

医師とのコミュニケーションが難しい利用者や、医師からの説明を理解しづらい利用者については受診に同行した。  
紀南こころの医療センターへの同行については、「にじのわ」が担当している。

(4) 服薬管理

3名の利用者の服薬管理を支援した。ヘルパー事業所と連携して休みの場合等の対応をしてもらった。

③ 個別処遇関係

毎日夕方のミーティング時に当日の気になる利用者の様子を報告し合い、週に一度の職員会議にてメンバー全員について一人ずつの様子を報告し合いながら問題の整理と目標の達成具合を確認した。  
個別支援計画の立案においては、年に数回早目に作業を終えて支援会議を行った。

### 3. 地域貢献及び地域交流活動

新型コロナウイルスの影響でバザーが全て中止になり、地域との交流はほとんどで  
きななかった。  
野外での作業は新型コロナウイルスの影響を受けずに済んだので、庭や畑の草刈りの依頼を請負った。

### 4. その他の活動

(1) 避難訓練

火災と地震を想定した避難訓練をそれぞれ1回ずつ行い、避難ルートの確認や初期消火の訓練などを行った。

(2) 自治会活動

新型コロナウイルスの影響でレクも旅行も中止になり、自治会が活躍できる場があまり無かった。

(3) レクリエーション

田辺市への買い物 5 回、外食 3 回、その他エネルギーランド、ブルーベリー狩り、釣り、干支の置物作り、などを楽しんだ。

5. 行事計画に対する実績

月	計画	実績
4	弓矢八幡神社チャリティーバザーへの参加	中止
5	買い物・スポーツレク	買い物を田辺市にて実施
6	防災・防火訓練	地震を想定した避難訓練を実施
7	草刈繁忙期により行事なし	買い物を田辺市にて実施
8	草刈繁忙期により行事なし	ブルーベリー狩り
9	草刈繁忙期により行事なし	なし
10	旅行	中止
11	すさみ町町民運動会へのバザー参加	運動会は中止。すさみ町内で釣り
12	忘年会、大掃除	忘年会として上富田の焼肉屋へ
1	初詣、新年会	王子神社へ初詣を実施
2	防火・防災訓練	買い物を田辺市にて実施
3	いきいきふれ愛まつりバザー参加 次年度自治会役員選出	バザーは中止、防火訓練を実施

6. 数値指標に対する実績

	計画	実績
1日平均利用者数	16人	16.1人
年間稼働予定日数	251日	250日
目標工賃(一人当たり)	21,000円	21,085円

就労支援売上実績

	計画	実績
受託作業	490 万	451 万
自主製品	20 万円	21 万円
内職作業	15 万円	6 万円
物品販売	25 万円	35 万円
リサイクル	20 万円	24 万円
その他	10 万円	29 万円
合計	580 万円	566 万円

7. 利用者の性別・年齢層・障害種別

	男	女	計
10 代	0	0	0
20 代	1	0	1
30 代	1	0	1
40 代	2	2	4
50 代	4	0	4
60 代	3	2	5
70 代	4	0	4
計	15	4	19

障害種別	人数
身体	3
知的	7
精神	10